港湾工事出来形管理基準

凡例

特 : 図面及び特記仕様書 共 ; 土木工事共通仕様書

業務共通仕様書;

港湾設計·測量·調查等業務共通仕様書

港湾工事出来形管理基準

目 次

1.	共通的		
	1 - 1	圧密・排水工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	1 - 2	締固工	5
	1 - 3	固化工	7
	1 - 4	洗掘防止工 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	9
	1 - 5	中詰工	9
	1 - 6	蓋コンクリートエ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	1 - 7	蓋ブロック工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	1 - 8	鋼矢板工 ·····	11
	1 - 9	控 工	13
	1 - 10	鋼杭工	17
	1 - 11	コンクリート杭工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
	1 - 12	防食工	19
	1 - 13	コンクリート舗装工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
	1 - 14	アスファルト舗装工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
	1 - 15	植生工	25
2.	土捨工		
		港湾設計·測量·調査等業務共通仕様書	
3.	海上地	盤改良工	
	3 - 1		25
	3 - 2	置換工	25
	3 - 3	圧密・排水工・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
	3 - 4	締固工	27
	3 - 5	固化工	27
4.	基礎工		
	4 - 1	基礎盛砂工 ·····	27
	4 - 2	洗掘防止工 ······	27
	4 - 3	基礎捨石工 ······	29
	4 - 4	基礎ブロック工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31

5.	本体工	(ケーソン式)	
		ケーソン製作工 ····································	33
	5 - 2	ケーソン進水据付工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
	5 - 3	中詰工	35
	5 - 4	蓋コンクリートエ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
	5 - 5	蓋ブロック工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
6.		(ブロック式)	
	6 - 1	本体ブロック製作工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
	6 - 2	本体ブロック据付工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37
	6 - 3	中詰工	37
	6 - 4	蓋コンクリートエ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37
	6 - 5	蓋ブロック工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37
7	本体工	(場所打式)	
1.	7-1	場所打コンクリートエ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	39
	7 - 2	水中コンクリートエ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	39
	7 - 2 $7 - 3$	プレパックドコンクリート工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	39
	7 - 3 $7 - 4$	水中不分離性コンクリートエ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	39 41
	7 — 4	水中小分離性コンクリート上 ····································	41
8.	本体工	(捨石・捨ブロック式)	
	8 - 1	洗掘防止工 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	41
	8 - 2	本体捨石工 ·····	41
	8 - 3	捨ブロックエ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41
	8 - 4	場所打コンクリートエ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43
9.	本体工	(鋼矢板式)	
	9 - 1	鋼矢板工 ······	43
	9 - 2	控 工	43
10	*#T		
10.		(コンクリート矢板式)	4 =
	10 – 1	コンクリート矢板工 ····································	45
	10-2	/	45
11.	本体工	(鋼杭式)	
	11 - 1	鋼杭工	45
12.		(コンクリート杭式)	
	12 - 1	コンクリート杭工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	45
港湾	工事出来形	管理基準	

13.	被覆・	退固工	
	13 - 1	被覆石工	47
	13 - 2	被覆ブロックエ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
	13 - 3	根固ブロック工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
14.	上部工		
	14 - 1	上部コンクリートエ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49
	14 - 2	上部ブロックエ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51
15.	付属工		
	15-1	係船柱工 ·····	53
	15-2	防舷材工 ······	53
	15 – 3	車止・縁金物工・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	53
	15 - 4	防食工	55
	15 – 5	付属設備工	55
	10 0		00
16.	消波工		
	16 - 1	洗掘防止工 ·····	55
	16-2	消波ブロック工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	55
17.	裏込・』		
	17 - 1	裏込工	57
	17 - 2	裏埋工	57
	17 - 3	裏埋土工	57
18.	陸上地	整改良工 2011年11日 - 11日 - 1	
			59
	18 - 2	締固工	59
	18 – 3	固化工 ·····	59
	10 0		00
19.	土工		
	19 - 1	掘削工 ······	59
	19 - 2	盛土工	59
	19 - 3	路床盛土工 ·····	59
	19 - 4	法面工	61
20.	舗装工		
		コンクリート舗装工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	61
		アスファルト舗装工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	61

21.	維持補	诊修工	
	21 - 1	維持塗装工	61
	21 - 2		61
22.	構造物		
۷۷.		加云工 取壊し工 ··········	63
	22 - 1		
	22-2	撤去工	63
23.			
	23 - 1	仮設鋼矢板工 ······	65
	23 - 2	仮設鋼管杭・鋼管矢板工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65
	23 - 3	仮設道路工 ·····	65
24	雑 工		
<i>-</i> 1.	24-1	· 現場鋼材溶接工 ·······	65
	24 - 2	現場鋼材切断工・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67
	24 - 3	その他雑工 ····································	67
25.	浚渫工		
	25-1	ポンプ浚渫工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67
	25-2	グラブ浚渫工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67
	25 - 3	硬土盤浚渫工	67
	25 - 4	岩盤浚渫工	69
	25 - 5	バックホウ浚渫工 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	69
26.	埋立工		
	26 - 1	固化工 ······	69
	26-2	埋立土工 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	69
27	道路舗	· 治生工	
۷۱.		コンクリート舗装工 ····································	71
		アスファルト舗装工・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	71
		道路付属工・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	71
	41 J		11
28.	緑地工	-	
	28 - 1	植生工	71

[参考]

様式・出来形 1-1-2(1)	;敷砂出来形管理表 ************************************
様式・出来形 1-1-2(2)	;敷砂出来形管理図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 1-2-2(1)	; サンドコンパクションパイル出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 1-2-2(2)	; 砂投入管理表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
様式・出来形 1-2-2(3)	; 締固工深浅図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
様式・出来形 1-3-1(1)	;深層混合処理杭出来形管理表 · · · · · · · · · · · ·
様式・出来形 1-3-1(2)	;深層混合処理杭鉛直度管理表 ·······
様式・出来形 1-4-1(1)	;洗掘防止マット出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 1-4-1(2)	;洗掘防止マット出来形管理図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 1-5-1	; 砂·石材中詰出来形管理表 ······
様式・出来形 1-6-1	; 蓋コンクリート出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 1-8-2	; 鋼矢板出来形管理表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
様式・出来形 1-9-5	; 腹起出来形管理表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
様式・出来形 1-9-6	; タイ材出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 1-10-2(1)	;鋼杭打込記録 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
様式・出来形 1-10-2(2)	;鋼杭出来形管理表 ************************************
様式・出来形 1-12-1(1)	; 電気防食出来形管理表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
様式・出来形 1-12-1(2)	; 電気防食電位測定管理表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
様式・出来形 1-13-1(1)	;路盤出来形管理表
様式・出来形 1-13-1(2)	;路盤出来形管理図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 1-14-3(1)	;舗装出来形管理表
様式・出来形 1-14-3(2)	;舗装出来形管理図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 3-2-1	;置換材出来形管理表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
様式・出来形 4-3-2(1)	; 基礎石均し出来形管理図(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 4-3-2(2)	; 基礎石均し出来形管理図(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 5-1-1	;ケーソン製作出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 5-2-1	;ケーソン据付出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 6-1(1)	;ブロック(方塊)製作出来形管理表 ・・・・・・・
様式・出来形 6-1(2)	; L型ブロック製作出来形管理表 ········
様式・出来形 6-1(3)	; セルラーブロック製作出来形管理表 ・・・・・・・
様式・出来形 6-1(4)	;ブロック製作等外見チェックリスト ・・・・・・・
様式・出来形 13-1-1(1)	;被覆石均し出来形管理図(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 13-1-1(2)	;被覆石均し出来形管理図(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 13-3-1	;根固ブロック製作出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 14-1(1)	;上部コンクリート(防波堤)出来形管理表・・・
様式・出来形 14-1(2)	;上部コンクリート(岸壁)出来形管理表 ・・・・・

様式・出来形 15-1-1	;係船柱出来形管理表
様式・出来形 15-2-1	; 防舷材出来形管理表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
様式・出来形 17-3-1	; 土砂掘削出来形管理表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
様式・出来形 24-1-1(1)	; すみ肉溶接出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 24-1-1(2)	; 突合わせ溶接出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 24-1-1(3)	; 鉄筋フレア溶接出来形管理表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
様式・出来形 25-1(1)	;浚渫出来形管理表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
様式・出来形 25-1(2)	; 浚渫出来形管理図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1. 共通的工種

1-1 圧密・排水工

工種	管理項目	測定方法	測定密度		
1. サンドドレーン	位置	トランシット及び光波 測距儀等により測定	転船毎及び監督職員の指示による。		
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全 数		
	砂の投入量	打込記録の確認	全数		
2. 敷砂均し	延長	スチールテープ、間 縄、光波測距儀等によ り測定	施工完了後		
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部;スチールテープ、レベル、光波測距 儀等で測定	測点間隔10m以下		
		水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下		
3. 載荷土砂	延長	等により測定	施工完了後		
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部;スチールテープ、レベル、光波測距 儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下		
		水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は 音響測深機等により測	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理図に測定結果 を記入し提出	特による。	自動位置決め装置を使用 している場合、その作動 状況が確認されていれば 不要
10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+;設計値より浅いことをいう。 -;設計値より深いことをいう。
0. 1 m ³	打込記録紙に砂の 圧入量を記入し提 出		
10cm	管理図に延長を記 入し提出	+規定しない -0	様式・出来形1-1-2参照
天端高 1 cm 天端幅10cm	管理図に天端高、 法肩、法尻、天端 幅及び法面勾配を	天端高 ±30cm天 端幅、法面勾配は 特による。	
10cm	記入し提出		
10cm	管理図に延長を記 入し提出	+規定しない -0	
天端幅10cm 天端高1cm	管理図に天端高、 法肩、法尻、天端 幅及び法面勾配を 記入し提出	天端高 ±50cm 天端幅、法面勾配 は特による。	
10cm			

工種	管理項目	測定方法	測定密度
4. ペーパードレーン	位 置	トランシット及び光波 測距儀等により測定	転船毎及び監督職員の指 示による。
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全 数
	ドレーン材 の打込長	打込記録の確認	全 数
5. グラベルマット	延長	スチールテープ、間 縄、光波測距儀等によ り測定	施工完了後
	天端高 天端幅 法面勾配	プ、レベル、光波測距 儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下
		水中部;スチールテープ、間縄、レッド又は 音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下
6. グラベルドレーン	位 置	トランシット及び光波 測距儀等により測定	転船毎及び監督職員の指 示による。
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全 数
	砕石の投入 量	打込記録の確認	全 数

3

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理図に測定結果 を記入し提出	特による。	自動位置決め装置を使用 している場合、その作動 状況が確認されていれば 不要
10cm	打込記録紙及び管 理表を作成して提 出	天端高 +規定しない - 0 先端深度 + 0 - 規定しない	+;設計値より浅いことをいう。 -;設計値より深いことをいう。
10cm	打込記録紙に打込 長を記入し提出		
10cm	管理図に延長を記 入し提出	+規定しない -0	様式・出来形1-1-2参照
天端高 1 cm 天端幅10cm	管理図に天端高、 法肩、法尻、天端 幅及び法面勾配を	天端高 ±30cm天 端幅、法面勾配は 特による。	
10cm	記入し提出		
1 cm	管理図に測定結果 を記入し提出	特による。	自動位置決め装置を使用 している場合、その作動 状況が確認されていれば 不要
10cm	打込記録紙及び管 理表を作成して提 出	天端高 +規定しない - 0 先端深度 + 0 -規定しない	+;設計値より浅いことをいう。 -;設計値より深いことをいう。
0.1 m ³	打込記録紙に砕石 の投入量を記入し 提出		

1-2 締固工

工種 管理項目 測定方法 測定密度 1. ロッドコンパク 位 置 トランシット及び光波 満定 打込記録の確認 全 数		2 柳凹工			
漁距儀等により測定 充填材の投入量		_ 122	管理項目	測定方法	測定密度
大量 打込記録の確認 全 数	1.				特による。
大端深度 打込記録の確認 全 数			/ - / 1 1 1 1		
2. サンドコンパク ションパイル 位 置 トランシット、光波測 転船毎及び監督職員の指 距儀等により測定 砂杭全数 ではなる。 一下端高 大端深度 打込記録の確認 砂杭全数 一部			天端高	打込記録の確認	全 数
 ションパイル 正機等により測定 一次の投入量 一次の投入量 打込記録の確認 砂杭全数 盛上り量 レベル、音響測深機又はレッドにより測定 一次ル、音響測深機又はレッドにより測定 一次ル、音響測深機又はレッドにより測定 一次ル、音響測深機又はレッドにより測定 一次ル、音響測深機又はレッドにより測定 一次のようにより測定 一次のようにより表しまする。 			先端深度	打込記録の確認	全 数
先端深度 砂の投入量 打込記録の確認 磁上り量 レベル、音響測深機又 完了後 測線・測点間隔は特による。 3. 盛上土砂撤去 撤去量 レベル、音響測深機又 にしッドにより測定 売了後 測線・測点間隔は特による。	2.		位 置		
盛上り量 レベル、音響測深機又 完了後				打込記録の確認	砂杭全数
はレッドにより測定 測線・測点間隔は特による。 3. 盛上土砂撤去 撤去量 レベル、音響測深機又 完了後 はレッドにより測定 測線・測点間隔は特による。			砂の投入量	打込記録の確認	砂杭全数
はレッドにより測定 測線・測点間隔は特による。			盛上り量		測線・測点間隔は特による。
4. 敷砂均し			撤去量		測線・測点間隔は特によ
	4.	敷砂均し			

5

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	管理図に測定結果 を記入し提出		
1. 0 m ³	測定記録等の提出		
10cm	打込記録の提出	天端高 +規定しない -0	
10cm	打込記録の提出	先端深度 + 0 -規定しない	+;設計値より浅いことをいう。 -;設計値より深いことをいう。
1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	特による。	様式・出来形1-2-2参照 自動位置決め装置を使用 している場合、その作動 状況が確認されていれば 不要
10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+;設計値より浅いことをいう。 -;設計値より深いことをいう。
0. 1 m ³	打込記録紙に砂の 圧入量を記入し提 出		
10cm	盛上り量の平面図 を作成し提出		
10cm	撤去量の平面図を 作成し提出		
			1-1-2敷砂均しを適用す る。

1-3 固化工

1-3 回北工			
工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 深層混合処理杭	位 置	トランシット及び光波 測距儀等により測定	海上施工は改良杭全数。陸上施工は特による。
	鉛直度 接 合	計等により処理機の鉛 直度を測定	(引抜きと貫入時)
	天端高 先端深度	深度計、ワイヤー繰出 長さ、潮位計、乾舷及 び処理機等により確認	改良杭全数
	固化材吐出 量	流量計等により硬化材 のm当りの吐出量を確 認	改良杭全数
	盛上り量	音響測深機又はレッド により測定	改良前、改良後
2. 敷砂均し			
3. 事前混合処理	延長	スチールテープ、間縄 等により測定	施工完了後
	天端高、天 端幅	陸上部:スチールテープ、レベル、光波測距 儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下
		水中部:スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下
4. 表層固化処理	延長	スチールテープ、間縄 等により測定	施工完了後
	天端高、天 端幅、厚さ	スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測 定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下

7

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 ст	管理図に測定結果 を記入し提出		様式・出来形1-3-1参照 自動位置決め装置を使用 している場合、その作動 状況が確認されていれば 不要
1分又は1cm	改良杭先端部の軌 跡図を作成し提出	特による。	陸上施工は除く。
1 cm	打込記録紙に天端 高、先端深度を記 入し管理表を提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+;設計値より浅いことをいう。 -;設計値より深いことをいう。
10または1 t	打込記録紙に硬化 材吐出量を記入し 提出		
10cm	盛上り量の図面を 作成し提出		1 1 0単行し仕) よ *** 田 . L
			1-1-2敷砂均しを適用す る。
10cm	管理図に延長を記 入し提出	+規定しない -0	
天端幅10cm 天端高1cm	管理図に天端高、 天端幅を記入し提 出	特による。	
10cm			
10cm	管理図に延長を記 入し提出	+規定しない -0	
天端幅10cm 天端高・厚さ1cm	管理図に天端高、 天端幅、厚さを記 入し提出	特による。	

1-4 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 洗掘防止	敷設位置	スチールテープ、間縄 等により測定	始、終端及び変化する箇 所毎並びに20mに1箇所 以上
	重ね幅	スチールテープ等によ り測定	1枚に2点
	延長	スチールテープ、間縄 等により測定	マットの中心を区間毎及び全長

1-5 中詰工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 砂・石材中詰	天端高	レベル、水糸張り、ス	1室につき1箇所(中心)
		チールテープ等により	
		ケーソン天端面からの	
		下りを測定	
2. コンクリート中	天端高	レベル、水糸張り、ス	1 室につき 1 箇所(中心)
詰		チールテープ等により	
3. プレパックドコ		ケーソン天端面からの	
ンクリート中詰		下りを測定	

1-6 蓋コンクリートエ

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 蓋コンクリート	天端高	レベル、水糸張り、ス チールテープ等により 測定	1室につき1箇所(中心)

1一7 蓋ブロックエ

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 蓋ブロック製作	幅、高さ、 長さ、壁厚	スチールテープ等によ り測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等によ り測定	型枠取外し後全数
2. 蓋ブロック据付	蓋ブロック 据付(天端 高)	レベル、水糸張り、ス チールテープ等により 測定	1室につき1箇所

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	測定表及び敷設図 を作成し提出	特による。	様式・出来形1-4-1参照 アスファルトマット、繊 維系マット、ゴムマッ
1 cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット・ゴムマット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	ト、合成樹脂系マット
10cm	測定表及び敷設図 を作成し提出	+規定しない -10cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	陸上±5cm 水中±10cm	様式・出来形1-5-1参照
1 cm	管理表を作成し提 出	陸上±3 cm 水中±5 cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提 出	陸上±3 cm 水中±5 cm	様式・出来形1-6-1参照

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提	幅 + 2 cm, - 1 cm	
	出	高さ+2 cm, -1 cm 長さ+2 cm, -1 cm	
		壁厚±1 cm	
1 cm	管理表を作成し提		
	出		
1 cm	管理表を作成し提	陸上±3cm	
	出	水中±5cm	

1-8 鋼矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 先行掘削	位 置	トランシット、スチールテープ等により測定	全 数
	掘削長 掘削深度	レベル等により測定	全 数
	掘削径	スチールテープ等により測定(水中の場合は	全数(水中の場合は適 官)
		ケーシング径等により確認)	H.)
2. 鋼矢板		作(1)	
イ)鋼矢板	打込記録	共第4編 3-3-13-2- (10)	40枚に1枚
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定(天端付近)	施工中適宜 打込完了時
	矢板法線に 対する出入 り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点
	矢板法線に 対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点
	矢板法線方 向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時(両端部)
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚
	矢板継手部 の離脱	観察(水中部は潜水 士)	全 数
口)鋼管矢板	打込記録	共第4編 3-3-13-2- (10)	20本に1本
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定 (天端付近)	施工中適宜 打込完了時
	矢板法線に 対する出入 り	トランシット、スチールテープ等により測定	
	矢板法線に 対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数確認後 10本に1本及び変化点
	矢板法線方 向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時(両端部)
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、10本に1本
	矢板継手部 の離脱	観察(水中部は潜水士)	全 数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	測定表を作成し提出	特による。	
10cm	測定表を作成し提 出	特による。	
10cm	測定表を作成し提出	特による。	
	打込記録を提出		様式・出来形1-8-2参照
1 cm	管理表を作成し提 出	+矢板1枚幅 -0	
1 cm	管理表を作成し提 出	±10cm	全数を目視で確認
1/1000	管理表を作成し提 出	10/1000以下	
1 cm 1/1000	管理表を作成し提 出	上下の差が矢板 1 枚幅未満 10/1000以下	
1 cm	管理表を作成し提 出 観察結果を報告	±10cm	全数を目視で確認
	打込記録を提出		
1 cm	管理表を作成し提出	特による。	
1 cm	管理表を作成し提 出	±10cm	全数を目視で確認
1/1000	管理表を作成し提 出	10/1000以下	
1 cm	管理表を作成し提 出	上下の差が矢板 1 枚幅未満	
1/1000 1 cm	管理表を作成し提 出	10/1000以下 ±10cm	全数を目視で確認
	観察結果を報告		

1-9 控工

1-9 任工		J	
工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 控鋼矢板	打込記録	共第4編 3-3-14-2- (10)	40枚に1枚
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定(天端付近)	施工中適宜 打込完了時
	矢板法線に 対する出入 り		打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点
	矢板法線に 対する傾斜		打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点
	矢板法線方 向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時(両端部)
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚
	矢板継手部 の離脱	観察(水中部は潜水 士)	全 数
2. 控鋼杭	打込記録	共第4編 3-3-14-3- (8)	20本に1本
	杭頭中心位 置	トランシット、スチー ルテープ等により測定	打込完了時、全数
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数
	杭の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数
3. プレキャストコ ンクリート控壁			型枠取外後全数
	法線に対す る出入	り測定	据付後ブロック1個につ き2箇所(最下段、最上 段)
	隣接ブロッ クとの間隔	り測定	据付後ブロック1個につ き2箇所(最下段、最上 段)
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最 上段のみ)
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につ き2箇所

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	打込記録を提出		様式・出来形1-8-2参照
1 cm	管理表を作成し提 出	+矢板1枚幅 -0	
1 cm	管理表を作成し提 出	±10cm	全数を目視で確認
1/1000	管理表を作成し提 出	10/1000以下	
1 cm 1/1000	管理表を作成し提 出	上下の差が矢板 1 枚幅未満 10/1000以下	
1 cm	管理表を作成し提出 観察結果を報告	±10cm	全数を目視で確認
	打込記録を提出		様式・出来形1-10-2参照
1 cm	管理表を作成し提 出	10㎝以下	
1 cm	管理表を作成し提 出	± 5 cm	
1 °	管理表を作成し提 出	直杭2°以下 斜杭3°以下	
1 cm	管理表を作成し提 出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ+ 2 cm, - 1 cm 長さ+ 2 cm, - 1 cm 壁厚± 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提 出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提 出	特による。	
1 cm	管理表を作成し提 出		
1 cm	管理表を作成し提 出		

工種	管理項目	測定方法	測定密度
4. 場所打コンクリ ート控壁	天端高又は 厚さ	レベル、スチールテー プ等により測定	1スパン3箇所
1 江至	天端幅	スチールテープ等によ	1スパン3箇所
	延長	り測定スチールテープ等によ	法線上
		り測定	
	法線に対す る出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所
5. 腹 起	取付高さ	レベル等により測定	取付完了時、両端(継手 毎)全数
	継手位置	観察	取付完了時、全数
	ボルトの取 付け	観察	取付完了時、全数
	大板と腹起 しとの密着	観察	タイロッド毎、全数
6. タイ材	しての名相		
イ)タイロッド取付	取付け高さ 及び水平度	レベル等により測定	締付後両端、全数
	矢板法線に 対する取付 角度及び取 付間隔	スチールテープ等によ り測定	締付後両端、全数
	定着ナット の締付け	観察	全 数
	ターンバッ クルのねじ 込み長さ	観 察	全 数
	リングジョ イントのコ ンクリート への埋込み	観 察	全 数
	支保材の天 端高	レベル等により測定	適宜
ロ) タイワイヤー取 付		レベル等により測定	締付後両端、全数
	矢板法線に 対する取付 角度及び取 付間隔	スチールテープ等によ り測定	締付後両端、全数
	定着ナット の締付け	観察	全 数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提 出	$\pm~2~\mathrm{cm}$	天端高又は厚さの管理項 目の選定は⊠による。
1 cm	測定表を作成し提 出	± 2 cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -0	
1 cm	測定表を作成し提 出	± 3 cm	
1 cm	管理表を作成し提 出		様式・出来形1-9-5参照
	観察結果を報告 観察結果を報告		
	観察結果を報告		
1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形1-9-6参照 腹起しに取り付ける場合 は不要
1 cm	管理表を作成し提 出		
	観察結果を報告	ねじ山が3つ山以 上突き出している こと。	
1 cm	観察結果を報告	定着ナットの高さ 以上	
	観察結果を報告		
1 cm	管理表を作成し提 出		
1 cm	管理表を作成し提 出		腹起しに取り付ける場合 は不要
1 cm	管理表を作成し提 出		
	観察結果を報告	ねじ山が3つ山以 上突き出している こと。	

工種	管理項目	測定方法	測定密度
	定着具端部 栓の取付け	観察	全数
	トランペッ トシースの 取付	観 察	全 数

1-10 鋼杭工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 先行掘削			
2. 鋼 杭	打込記録	共第4編 3-3-14-3- (8)	共第4編 3-3-16-2-9支 持杭は全数、支持杭以外 は20本に1本
	杭頭中心位 置	トランシット、スチー ルテープ等により測定	打込完了時、全数
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数
	杭の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数

1-11 コンクリート杭工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. コンクリート杭	打込記録	JIS A 7201 記録	支持杭は全数、支持杭以 外は20本に1本
	杭頭中心位 置	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、全数
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数
	杭の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
	観祭和木を報口		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-8-1先行掘削を適用す る。
	打込記録を提出		様式・出来形1-10-2参照
1 cm	管理表を作成し提 出	10㎝以下	
1 cm	管理表を作成し提 出	± 5 cm	
1 °	管理表を作成し提 出	直杭2°以下 斜杭3°以下	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	JIS A 7201 付表 5		
	打込み工法記録を 作成し提出		
1 cm		10cm以下	
	出		
1 cm	管理表を作成し提	$\pm~5~\mathrm{cm}$	
	出		
1 °	管理表を作成し提	直杭2°以下	
	出	斜杭3°以下	

1-12 防食工

	工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 電		取付位置	目視(承諾された図面 より確認)潜水士によ る。	取付完了後、全数
		電位測定	測定機器による。	取付完了後、測定端子取 付箇所毎
	FRPモルタル ライニング	取付高さ	レベルにより測定	取付完了後、上端高さ 鋼管杭;全数 矢板;1打設3箇所以上
1	ペトロラタムラ イニング コンクリート被	高さ	レベルにより測定	完了後、上端・下端高さ 鋼管杭;全数 矢板;1打設3箇所以上
覆				六似,111页3 固用以上

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
特による	確認結果を提出		様式・出来形1-12-1参照
1 m V	測定表を作成し提 出	飽和かんこう電極 基準;-770mV 海水塩化銀基準 ;-780mV 又は飽和硫酸銅電 極基準;-850mV	
特による	測定表を作成し提 出		
特による	測定表を作成し提 出		

1-13 コンクリート舗装工

1-13 コングリート舗装工				
工種	管理項目	測定方法	測定密度	
1. 下層路盤	高さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の 3点を延長20mに1箇 所、道路舗装は中心及び 両端部の3点を延長40m に1箇所	
	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇 所、道路舗装は特によ る。	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所	
	延長	スチールテープ等によ り測定	両端2箇所	
2. 上層路盤	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇 所、道路舗装は特によ る。	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所	
	延長	スチールテープ等により測定	両端2箇所	
3. コンクリート舗装版	厚さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の 3点を延長20mに1箇 所、道路舗装は中心及び 両端部の3点を延長40m に1箇所	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所	
	延長	スチールテープ等によ り測定	両端2箇所	
	平坦性	3 mプロフィルメータ により測定	各レーン毎全延長	

21

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 4 cm	様式・出来形1-13-1参照
1 mm	測定表を作成し提出	+規定しない -4.5cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -5cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -0	
1 mm	測定表を作成し提 出	+規定しない -2.5cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -5cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -0	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない - 1 cm	コンクリート版の厚さ、 その他を確認するため、 監督職員が必要と認めた ときは、コアを採取す る。
1 mm	測定表を作成し提 出	+規定しない -2.5cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -0	
1 mm	記録紙及び管理表 を作成し提出	機械舗設の場合 2mm以下 人力舗設の場合 3mm以下	

1-14 アスファルト舗装工

	1		
工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 下層路盤	高さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の 3点を延長20mに1箇 所、道路舗装は中心及び 両端部の3点を延長40m に1箇所
	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇 所、道路舗装は特によ る。
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所
	延長	スチールテープ等により測定	両端2箇所
2. 上層路盤	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇 所、道路舗装は特によ る。
	幅	スチールテープ等によ り測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所
	延長	スチールテープ等により測定	両端2箇所
3. 基 層	厚さ	抜き取りコアをスチー ルテープ等で測定	1,000m ² に1箇所
	幅	スチールテープ等によ り測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所
	延 長	スチールテープ等によ り測定	両端2箇所
4.表層	厚さ	抜き取りコアをスチー ルテープ等で測定	1,000m ² に1箇所
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所
	延 長	スチールテープ等によ り測定	両端2箇所
	平坦性	3 mプロフィルメータ により測定	各レーン毎全延長

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提 出	± 5 cm	
1 mm	測定表を作成し提	+規定しない	
1 111111	側定衣を下放し旋 出	一4.5cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -5cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -0	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -3cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -5cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -0	
1 mm	測定表を作成し提 出	+規定しない -1.2cm	様式・出来形1-14-3参照
1 mm	測定表を作成し提 出	+規定しない -2.5cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -0	
1 mm	測定表を作成し提出	+規定しない -9mm	様式・出来形1-14-3参照
1 mm	測定表を作成し提 出	+規定しない -2.5cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -0	
1 mm	記録紙及び管理表 を作成し提出	2.4mm以下	

1-15 植生工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 張 芝 2. 筋 芝	材料の使用 数量 長さ、幅	使用数量表等により確認 スチールテープ等によ	施工完了後 施工完了後
	(面積)	り測定観察	施工完了後、区域全体
3.播種 4.種子吹付	材料の使用 数量 長さ、幅 (面積)	使用数量表等により確認 スチールテープ等により測定	施工完了後
5. 植 栽	植生状況 材料の使用 数量	特による。 使用数量表等により確認	特による。 搬入時、全数
	樹高、枝張 り幅、幹周 り	スチールテープ等によ り測定	種類毎、搬入後適宜
	植付け状況	観察	施工完了後、全本数

2. 土捨工

3. 海上地盤改良工

3-1 床掘工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ポンプ床掘 2. グラブ床掘	水 深 (底面)	調査共通仕様書による。 又は特による。	測線間隔は特による。
3. 硬土盤床掘 4. 砕岩床掘 5. バックホウ床掘	(法面)	調査共通仕様書による。 又は特による。	測線間隔は特による。

3-2 置換工

エ	種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 置換材	均し	延長	スチールテープ、間 縄、光波測距儀等によ り測定	施工完了後
			陸上部;スチールテープ、レベル、光波測距 儀等で測定	測線間隔20m以下測点間 隔10m以下
			プ、間縄、レッド又は 音響測深機等により測	測線間隔20m以下測点間 隔20m以下
			定	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	使用数量表等を作		
	成し提出		
10cm	管理表を作成し提	+規定しない	
$(0.1 \mathrm{m}^{2})$	出	- 0	
	観察結果を報告		
	使用数量表等を作		
	成し提出		
10cm	管理表を作成し提	+規定しない	
$(0.1 \mathrm{m}^{2})$	出	- 0	
	特による。	特による。	
	使用数量表等を作		
	成し提出		
樹高、枝張り幅	管理表を作成し提	+規定しない	
10cm	出	- 0	
幹周り 1 cm			
	観察結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	平面図に実測値を		断面図は監督職員が指示
	記入し提出	る。	したとき作成し提出
10cm	平面図に実測値を	外側2m(法面に直	
	記入し提出	角)	
		内側30cm(法面に直	
		角)又は特によ	
		る。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	管理図に延長を記 入し提出	+規定しない -0	様式・出来形3-2-1参照
天端高 1 cm 天端幅10cm	管理図に天端高、 法肩、法尻、天端 幅及び法面勾配を	天端高 ±50cm又 は特による 天端幅、法面は特	
10cm	記入し提出	による。	

3-3 圧密・排水工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
圧密・排水工			

3-4 締固工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
締固工			

3-5 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
固化工			

4. 基礎工

4-1 基礎盛砂工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 盛砂均し	延長	スチールテープ、間 縄、光波測距儀等によ り測定	施工完了後
	天端高 天端幅 法面勾配	スチールテープ、間 縄、レッド又は音響測 深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下

4 一 2 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
洗掘防止工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-1圧密・排水工を適用 する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-2締固工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-3固化工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	管理図に延長を記 入し提出	+規定しない -0	様式・出来形1-1-2参照
10cm	管理図に天端高、 法肩、法尻、天端 幅及び法面勾配を 記入し提出	天端高 ±30cm天 端幅、法面勾配は 特による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-4洗掘防止工を適用す る。

4-3 基礎捨石工

4-3 基礎括句工		T	,
工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 基礎捨石 (均しを行わない面)	天端高		測線及び測点間隔は10m 以下
(1.0 o 5 11 42 12 1 m)	法 面		測線間隔は10m以下測点 3点以上、但し、マウン
			ド厚2m以下の場合は2 点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄 等により測定	測線間隔は10m以下
	延長	スチールテープ、間縄 等により測定	法線上
2. 捨石本均し	天端高	レベル又は特により測定	測線及び測点間隔は10m 以下
	天端幅	スチールテープ、間縄 等により測定	測線間隔は10m以下
	延長	スチールテープ、間縄 等により測定	法線上
3. 捨石荒均し	天端高		測線及び測点間隔は10m 以下
	N. T	who WHIT NEW YORK I AV	
	法 面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測点 3点以上、但し、マウン ド厚2m以下の場合は2 点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄 等により測定	測線間隔は10m以下
	延長	スチールテープ、間縄 等により測定	法線上

29

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	均し出来形図を作 成し提出	特による。	
10cm	均し出来形図を作 成し提出	特による。	
10cm	均し出来形図を作 成し提出	特による。	
10cm	均し出来形図を作 成し提出	特による。	
1 cm	均し出来形図を作 成し提出	± 5 cm	様式・出来形4-3-2参照
10cm	均し出来形図を作 成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	均し出来形図を作 成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	均し出来形図を作 成し提出	壁前面+0,-20cm 又は特による。 異形ブロック据付 面(整積)の高さ (法面に直角) ±30cm 又は特による。	注)-1 係留施設・護 岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。
10cm	均し出来形図を作 成し提出	面に直角) 異形ブロック据付 面(整積)の高さ (法面に直角) ±30cm 又は特による。	注)-2 係留施設・護岸・ 土留壁等の背面について は、荒均しを適用しな い。
10cm	均し出来形図を作 成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	均し出来形図を作 成し提出	+規定しない -10cm	

4-4 基礎ブロックエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 基礎ブロック製作	幅、高さ、 長さ、壁厚	スチールテープ等によ り測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等によ り測定	型枠取外し後全数
	型枠形状寸 法(異形ブ ロック)	観察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観(異形ブロック)	観察	全 数
2. 基礎ブロック据 付	法線に対す る出入	スチールテープ等によ り測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)
	隣接ブロッ クとの間隔	スチールテープ等によ り測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)
	延長	スチールテープ等によ り測定	据付完了後、法線上(最 上段のみ)
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック 1 個につ き 2 箇所(最上段のみ)

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提 出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ+ 2 cm, - 1 cm 長さ+ 2 cm, - 1 cm 壁厚生 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提 出		
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
1 cm	管理表を作成し提 出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提 出	ブロック(方塊) 3 cm以下	
1 cm	管理表を作成し提 出		
1 cm	管理表を作成し提 出		

5. 本体工(ケーソン式)

5-1 ケーソン製作工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ケーソン製作	摩擦増大用	スチールテープ等によ	始・終端及び変化する箇
	マット敷設 位置	り確認	所毎
	高さ	スチールテープ等によ り測定	完成時、四隅
	幅	スチールテープ等によ	各層完成時に中央部及び
	F (り測定	底版と天端は両端
	長さ	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及び 底版と天端は両端
	壁厚	スチールテープ等によ り測定	各層完成時、各壁1箇所
	底版厚さ	レベル、スチールテー	底版完成時、各室中央部
	コ エンガ	プ等により測定	1箇所
	フーチング 高さ	スチールテープ等により測定	底版完成時、四隅
	対角線	スチールテープ等により測定	底版完成時及び完成時
	バラスト	レベル等により測定	各室中央部1箇所

5-2 ケーソン進水据付工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ケーソン進水据 付	法線に対す る出入	トランシット及びス チールテープ等により 測定	据付完了後、両端2箇所
	据付目地間隔	スチールテープ等によ り 測定	据付完了後、天端2箇所
	天端高さ	レベルにより測定	据付完了後、四隅 中詰完了時、四隅
	延長	スチールテープ等によ り測定	据付完了後、法線上

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	測定表及び敷設図	特による。	
	を作成し提出		
	211794 - 200		
1 cm	管理表を作成し提	+ 3 cm	様式・出来形5-1-1参照
	出	- 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提	+ 3 cm	
	出	- 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提	+ 3 cm	
	出	- 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提	$\pm~1~\mathrm{cm}$	
	出		
1 cm	管理表を作成し提	+ 3 cm	
	出	- 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提	+ 3 cm	
	出	- 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提	± 5 cm	
	出		
1 cm	管理表を作成し提	砕石・砂 ±10cm	投入量管理
	出	コンクリート ±5 cm	
	·	•	•

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提 出	防波堤 ケーソン質量 2,000t未満±20cm 2,000t以上±30cm 岸 壁 ケーソン質量 2,000t未満±10cm 2,000t以上±15cm	様式・出来形5-2-1参照
1 cm	管理表を作成し提 出	防波堤 ケーソン質量 2,000t未満 20cm以下 2,000t以上 30cm以下 岸 壁 ケーソン質量 2,000t未満 10cm以下 2,000t以上 20cm以下	
1 cm	管理表を作成し提 出		
1 cm	管理表を作成し提 出		

5-3 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
中詰工			

5-4 蓋コンクリートエ

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
蓋コンクリート工			

5-5 蓋ブロックエ

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
蓋ブロック工			

6. 本体工(ブロック式)

6-1 本体ブロック製作工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 本体ブロック製作	幅、高さ、 長さ、壁厚	スチールテープ等によ り測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等によ り測定	型枠取外し後全数
	型枠形状寸 法(異形ブ ロック)	観察	型枠搬入後適宜
	ブロック外 観(異形ブ ロック)	観察	全数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-5中詰工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-6蓋コンクリート工を 適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-7蓋ブロック工を適用 する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提		様式・出来形6-1参照
	出	高さ $+2$ cm, -1 cm	
		長さ+2 cm, -1 cm	
		壁厚±1 cm	ブロック(方塊)
1 cm	管理表を作成し提		様式・出来形6-1参照
	出		セルラーブロック
			ブロック(方塊)
	観察結果を報告		
	for the classes and		
	観察結果を報告		

6-2 本体ブロック据付工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
 本体ブロック据付 	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につ き2箇所(最下段、最上 段)
	隣接ブロッ クとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段)
	延長	スチールテープ等によ	据付完了後、法線上(最
	進 文	り測定	上段のみ)
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につ き2箇所(最上段のみ)

6-3 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
中詰工			

6-4 蓋コンクリートエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度
蓋コンクリート工			

6-5 蓋ブロックエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度
蓋ブロック工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提 出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	L型ブロック セルラーブロック 5 cm以下 直立消波ブロック ブロック(方塊) 3 cm以下	
1 cm	管理表を作成し提 出		
1 cm	管理表を作成し提 出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-5中詰工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-6蓋コンクリート工を 適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-7蓋ブロック工を適用 する。

7. 本体工(場所打式)

7-1 場所打コンクリートエ

	// II	Sec. L. L. S.L.	Section 1 and 1 and 1
工種	管理項目	測定方法	測定密度
場所打コンクリート	Ľ		
イ)防波堤	天端高	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所 以上 パラペット頂部は1スパ ン2箇所以上
	天端幅	スチールテープ等によ り 測定	
	延長	スチールテープ等によ り測定	法線上
	法線に対す る出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所
口)岸 壁	天端高又は 厚さ	レベル、スチールテー プ等により測定	1スパン3箇所
	天端幅	スチールテープ等によ り測定	1スパン3箇所
	延長	スチールテープ等によ り測定	法線上
		トランシット、スチー ルテープ等により測定	1スパン2箇所
		スチールテープ等によ り測定	スパン毎

7-2 水中コンクリートエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度
水中コンクリート工			

7-3 プレパックドコンクリートエ

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
プレパックドコンク			
リートエ			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提	天端幅10m以下の	様式・出来形14-1参照
	出	場合は±2cm	天端高さ又は厚さの管理
		天端幅10mを超え	項目の選定は特による。
		る場合は+5cm-	
		2 cm	
1 cm	測定表を作成し提	天端幅10m以下の	
	出	場合は±3cm	
		天端幅10mを超え	
		る場合は+5cm-	
		3 cm	
1 cm	測定表を作成し提	+規定しない	
	出	- 0	
1 cm	測定表を作成し提	\pm 5 cm	
	出	注)	
		又は特による。	
1 cm	測定表を作成し提	$\pm 2 \text{ cm}$	天端高又は厚さの管理項
	出		目の選定は特による。
1 cm	測定表を作成し提	$\pm 2 \text{ cm}$	
	出		
1 cm	測定表を作成し提	+規定しない	
	出	- 0	
1 cm	測定表を作成し提	$\pm 3 \text{ cm}$	
	出		
1 cm	測定表を作成し提		
	出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			7-1場所打コンクリート 工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			7-1場所打コンクリート 工を適用する。

7-4 水中不分離性コンクリートエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度
水中不分離性コンク			
リートエ			

8. 本体工(捨石・捨ブロック式)

8-1 洗掘防止工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
洗掘防止工			

8-2 本体捨石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
本体捨石工			

8-3 捨ブロックエ

	工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1.	. 捨ブロック製作	幅、高さ、 長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10個に1個 以上測定
		対角線	スチールテープ等によ り測定	型枠取外し後全数10個に 1個以上測定
		型枠形状寸 法 (異形ブ ロック)	観察	型枠搬入後適宜
		ブロック外 観 (異形ブ ロック)	観察	全数
2.	. 捨ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につ き2箇所(最下段、最上 段)
		隣接ブロッ クとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につ き2箇所(最下段、最上 段)
		延長	スチールテープ等によ り測定	据付完了後、法線上(最 上段のみ)
		天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につ き2箇所(最上段のみ)

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			7-1場所打コンクリート 工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-4洗掘防止工を適用す る。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			4-3基礎捨石工を適用す る。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提 出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ+ 2 cm, - 1 cm 長さ+ 2 cm, - 1 cm 壁厚生 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提 出		
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
1 cm	管理表を作成し提 出		
1 cm	管理表を作成し提 出	ブロック(方塊) 3 cm以下	
1 cm	管理表を作成し提 出		
1 cm	管理表を作成し提 出		

8-4 場所打コンクリートエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度
場所打コンクリート工	天端高	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上
	天端幅	スチールテープ等によ り 測定	1スパン3箇所
	延長	スチールテープ等によ り測定	法線上
	法線に対す る出入	トランシット、スチー ルテープ等により測定	1スパン2箇所

9. 本体工(鋼矢板式)

9-1 鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
鋼矢板工			

9-2 控 エ

工種	管理項目	測定方法	測定密度
控 工			

	T.	T	T
測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 ст	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の 場合は±2cm 天端幅10mを超え る場合は+5cm- 2cm	様式・出来形14-1参照 天端高さの管理項目の選 定は特による。
1 ст	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の 場合は±3cm 天端幅10mを超え る場合は+5cm- 3cm	
1 cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -0	
1 cm	測定表を作成し提 出	±5cm 注) 又は特による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-8鋼矢板工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-9控工を適用する。

10. 本体工(コンクリート矢板式)

10-1 コンクリート矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. コンクリート矢 板	矢板壁延長	スチールテープ等によ り測定 (天端付近)	施工中適宜 打込完了時
	矢板法線に 対する出入 り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点
	矢板法線に 対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点
	矢板法線方 向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時(両端部)
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚
	矢板継手部 の離脱	観察(水中部は潜水士)	全 数

10-2 控 工

	工種	管理項目	測定方法	測定密度
控	I			

11. 本体工(鋼杭式)

11-1. 鋼杭工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
鋼杭工			

12. 本体工 (コンクリート杭式)

12-1 コンクリート杭工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
コンクリート杭工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提 出	+矢板1枚幅 -0	
1 cm	管理表を作成し提 出	特による。	全数を目視で確認
1/1000	管理表を作成し提 出	特による。	
1 cm 1/1000	管理表を作成し提 出	上下の差が矢板 1 枚幅未満2/100以下	
1 cm	管理表を作成し提 出	± 5 cm	全数を目視で確認
	観察結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-9控工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-10鋼杭工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-11コンクリート杭工を 適用する。

13. 被覆•根固工

13-1 被覆石工

10 以後日上			
工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 被覆石 (均しを行わない面)	天端面	音響測深機、レッド又 はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m 以下
2. 被覆石均し	天端面	音響測深機、レッド又 はレベル等により測定	
	法 面	音響測深機、レッド又 はレベル等により測定	
	天端幅	スチールテープ、間縄 等により測定	測線間隔は10m以下
	延長	スチールテープ、間縄 等により測定	天端中心上

13-2 被覆ブロックエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 被覆ブロック製作	型枠形状寸 法(異形ブ ロック)	観察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観(異形ブロック)	観察	10個に1個以上測定
2. 被覆ブロック据付	延長	スチールテープ等によ り測定	据付完了後、法線上(最 上段のみ)

13-3 根固ブロックエ

	工種	管理項目	測定方法	測定密度
1.	根固ブロック製 作	幅、高さ、 長さ、壁厚	スチールテープ等によ り 測定	10個に1個以上測定
		対角線	スチールテープ等によ り測定	10個に1個以上測定
2.	根固ブロック据 付			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	出来形図を作成し 提出	特による。	様式・出来形13-1-1参照
10cm	出来形図を作成し 提出	±50cm 岸壁前面+0、- 20cm又は特による。	
10cm	出来形図を作成し提出	±50cm(法面に直 角) 異形ブロック据 付面 (整積) の高さ (法面に直 角) ±30cm又は特に よる。	
10cm	出来形図を作成し 提出	+規定しない -20cm	
10cm	出来形図を作成し 提出	+規定しない -20cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
	然细士之儿上1		
1 cm	管理表を作成し提		
	出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm			様式・出来形13-3-1参照
		高さ+2 cm, -1 cm	
		長さ+2cm, -1cm 壁厚±1cm	
		壁序→ 1 CШ	
1 cm	管理表を作成し提		
	出		
			13-2-2被覆ブロック据付
			を適用する。

14. 上部工

14-1 上部コンクリートエ

14-1 上部コングリートエ				
工種	管理項目	測定方法	測定密度	
上部コンクリート工 イ)防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所 以上 パラペット頂部は1スパ ン2箇所以上	
	天端幅	スチールテープ等によ り測定		
	延長法線に対す	スチールテープ等により測定トランシット、スチー	法線上 1スパン2箇所	
口) 岸 壁	る出入 天端高又は 厚さ 天端幅	ルテープ等により測定 レベル、スチールテー プ等により測定 スチールテープ等によ		
	延 長 法線に対する出入	り測定 スチールテープ等によ り測定 トランシット、スチー ルテープ等により測定	法線上 1スパン2箇所	
ハ) 桟 橋	防舷材ベッド	スチールテープ等によ り測定	スパン毎	

49

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提	天端幅10m以下の	様式・出来形14-1参照
	出	場合は±2cm	天端高さ又は
		天端幅10mを超え	厚さの管理項
		る場合は+5cm-	目の選定は特による。
		2 cm	
1 cm	測定表を作成し提	天端幅10m以下の	
	出	場合は±3cm	注)本体がケーソンの場
		天端幅10mを超え	合ケーソン質量
		る場合は+5cm-	2,000t未満 ±20cm
		3 cm	2,000t以上 ±30cm
1 cm	測定表を作成し提	+規定しない	
	出	- 0	
1 cm	測定表を作成し提	\pm 5 cm	
	出	注)	
		又は特による。	
1 cm	測定表を作成し提	$\pm~2~\mathrm{cm}$	天端高又は厚さの管理項
	出		目の選定は特による。
1 cm	測定表を作成し提	$\pm~2~\mathrm{cm}$	
	出 2015年27年2	1 (m d) 2	4
1 cm	測定表を作成し提	+規定しない	
	出	- 0	4
1 cm	測定表を作成し提	± 3 cm	
1	出		-
1 cm	測定表を作成し提		
	出		14 1 5切っいカリ、ファ
			14-1上部コンクリートエ の岸壁を適用する。
			円屋を週用りる。 梁(高さ、幅)、床版厚は
			聚(高さ、幅)、床板厚は 型枠検査による。
			至件便宜による。

14-2 上部ブロックエ

THE THIP TO			
工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 上部ブロック製 作	幅、高さ、 長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等によ り測定	型枠取外し後全数
2. 上部ブロック据付	计		
イ)防波堤			
口)岸 壁			
ハ) 桟橋上部コンク リート			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提	幅 + 2 cm, - 1 cm	
	出	高さ $+2$ cm, -1 cm	
		長さ $+2$ cm, -1 cm	
		壁厚±1 cm	
1 cm	管理表を作成し提		
	出		
			14-1上部コンクリート工
			イ)防波堤を適用する。
			14-1上部コンクリートエ
			の岸壁を適用する。
			14-1上部コンクリートエ
			ハ)桟橋を適用する。

15. 付属工

15-1 係船柱工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 係船柱	天端高	レベルにより測定	据付完了時、中心部、全数
	岸壁前面に 対する出入	トランシット、スチー ルテープ等により測定	据付完了時、全数
	中心間隔	スチールテープ等によ り測定	据付完了時、各スパン毎 中心部、各基
	直柱基礎コ ンクリート (幅)	スチールテープ等によ り測定	完了時、全数、天端両端
	(長さ)	スチールテープ等によ り測定	完了時、全数、前後面
	(高さ)	レベルにより測定	完了時、全数、中心点

15-2 防舷材工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 防舷材	取付高さ	レベル又はスチール テープ等により測定	取付完了時、中心部、全数
	中心間隔	スチールテープ等によ り測定	取付完了時、中心部、全数

15-3 車止・縁金物工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
車止・縁金物工	天端高	レベルにより測定	取付完了時、中心部、全数
		トランシット、スチー ルテープ等により測定	取付完了後中心部を1点
	取付間隔	スチールテープ等によ り測定	上部工1スパンに2箇所
	塗 装	目視による観察	
	警戒色 (シマ模様)	スチールテープ等によ り測定	完了時適宜

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提 出	曲柱±2 cm 直柱±2 cm	様式・出来形15-1-1参照
1 cm	管理表を作成し提 出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提 出		様式・出来形15-2-1参照
1 cm	管理表を作成し提 出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提		様式・出来形15-3-1参照
1 am	出 管理表を作成し提	± 3 cm	
1 cm	出	_ 3 Cm	
1 cm	管理表を作成し提 出		
	観察結果を報告		
	確認結果を報告		

15-4 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
防食工			

15-5 付属設備工

工 種 管理項目		測定方法	測定密度		
係船環	取付位置	スチールテープ等により測定	取付完了時、 数	中心部、	全

16. 消波工

16-1 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
洗掘防止工			

16-2 消波ブロックエ

工種		管理項目		測定方法	測定	密度	
1. 消波ブロ 作	注	型枠形状寸 ミ(異形ブ ロック)	観	察	型枠搬入後達	宜	
	を		観	察	10個に1個以	上測定	
2. 消波ブロ 付	ック据 延		スチ り測	ールテープ等によ 定	据付完了後、 上段のみ)	法線上	(最

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-12防食工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提 出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-4洗掘防止工を適用す る。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
1 cm	管理表を作成し提 出		

17. 裏込·裏埋工

17-1 裏込工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 裏込材 (均しを行わない面)	天端高	レベル、レッドにより 測定	測線及び測点間隔は10m 以下
	法 面	レベル、レッドにより 測定	測点は3点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄 等により測定	測線間隔は10m以下
	延長	スチールテープ、間縄 等により測定	天端中心上
2. 裏込均し	天端面	レベル、レッドにより 測定	測線及び測点間隔は10m 以下
	法 面	レベル、レッドにより 測定	測点は3点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄 等により測定	測線間隔は10m以下
	延長	スチールテープ、間縄 等により測定	天端中心上
3. 吸出し防止材	敷設位置	スチールテープ、間縄 等により測定	所毎並びに20mに1箇所 以上
	重ね幅	スチールテープ等によ り測定	1枚に2点
	延 長	スチールテープ、間縄 等により測定	マットの中心を区間毎及び全長

17-2 裏埋工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
裏埋工	地盤高 (陸上部)	レベル等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下
	(水中部)	レベル、レッド及び音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下

17-3 裏埋土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削 2. 土砂盛土	基準高	レベル等により測定	法肩、法尻及び中心を延 長20mに1箇所以上
	幅	スチールテープ等によ り測定	延長20mに1箇所以上
	法 長	スチールテープ等によ り測定	延長20mに1箇所以上
	延長	スチールテープ等によ り測定	両端及び中心

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
陸上 1 cm 水中 10cm	出来形図を作成し 提出	特による。	
10cm	出来形図を作成し 提出	特による。	
10cm	出来形図を作成し 提出	特による。	
10cm	出来形図を作成し 提出	特による。	
陸上 1 cm 水中 10cm	出来形図を作成し 提出	±20cm	
10cm	出来形図を作成し 提出	±20cm (法面に直角)	マット等を使用する場合を含む。
10cm	出来形図を作成し 提出	+規定しない -10cm	
10cm	出来形図を作成し 提出	+規定しない -10cm	
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	特による。	様式・出来形1-4-1参照 アスファルトマット、繊 維系マット、合成樹脂系
1 cm	測定表及び敷設図 を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維 系マット) 30cm以上(合成樹 脂系マット)	
10cm	測定表及び敷設図 を作成し提出	+規定しない −10cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	平面図に実測値を 記入し提出	特による。	変化点は測定する。
	平面図に実測値を 記入し提出	特による。	変化点は測定する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提	特による。	様式・出来形17-3-1参照
	出		
10cm	測定表を作成し提	特による。	
	出		
10cm	測定表を作成し提	特による。	
	出		
10cm	測定表を作成し提	特による。	
	出		

18. 陸上地盤改良工

18-1 圧密・排水工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
圧密・排水工			

18-2 締固工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
締固工			

18-3 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
固化工			

19. 土 エ

19-1 掘削工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削			

19-2 盛土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂盛土			

19-3 路床盛土工

工種	管理項目	測定方法	測定密度	
1. 路床盛土	高さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の 3点を延長20mに1箇 所、道路舗装は中心及び 両端部の3点を延長40m に1箇所	
	幅	スチールテープ等によ り測定	舗装は延長20mに1箇 所、道路舗装は延長40m に1箇所	
	延長	スチールテープ等によ り測定	両端2箇所	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-1圧密・排水工を適用 する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	1-2締[1-2締固工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	1-3固		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-1土砂掘削を適用す る。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-2土砂盛土を適用する。

測知	官単位	結果の整理方法	許容範囲	備	考
	Lem	測定表を作成し提 出	± 5 cm		
	l cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -10cm		
	l cm	測定表を作成し提 出	+規定しない -0		

19-4 法面工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 法 面			

20. 舗装工

20-1 コンクリート舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
コンクリート舗装工			

20-2 アスファルト舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
アスファルト舗装工			

21. 維持補修工

21-1 維持塗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 係船柱塗装	塗装箇所	目視(承諾された図面より確認)	塗装完了後、全数
2. 車止塗装			
イ)鋼 製	塗装箇所	目視(承諾された図面より確認)	塗装完了後、全数
ロ) その他	塗装箇所	目視(承諾された図面より確認)	塗装完了後、全数
3. 縁金物塗装			

21-2 防食工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
防食工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-1土砂掘削、17-3-2 土砂盛土及び1-15植生工 を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-13コンクリート舗装工 を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-14アスファルト舗装工 を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	確認結果を提出	特による。	
	確認結果を提出	特による。	
	確認結果を提出	特による。	
			21-1-2車止塗装を適用す
			る。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-12防食工を適用する。

22. 構造物撤去工

22-1 取壊しエ

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. コンクリート取 壊し	外 観	目視による観察	全数

22-2 撤去工

	工種	管理項目	測定方法	測定密度
1.	水中コンクリー		0.47 = 7.7 10 1	
	ト撤去	延長	ルテープ等により測定	
		外 観	潜水士による観察	全 数
2.	鋼矢板等切断撤	形状寸法	スチールテープ等によ	全 数
	去		り測定	
		外 観	目視又は潜水士による	全 数
			観察	
3.	腹起・タイ材撤	形状寸法	スチールテープ等によ	全数
	去		り測定	
		外 観	目視又は潜水士による	全 数
	A NATA HEALTH T		観察	
4.	舗装版撤去	幅、高さ、	トランシット、スチー	
		延長	ルテープ等により測定	
		外観	1 Day 0. 0 Day	全 数
5.	石材撤去	幅、高さ、	トランシット、スチー	
		延長	ルテープ等により測定	A 141
		外 観	目視又は潜水士による	全 数
)) H/L-	#4.15 L.M.	観察	A 141.
6.	ケーソン撤去	形状寸法	スチールテープ等によ	全 数
		AI Æ	り測定	人 松 .
		外 観	目視又は潜水士による	全 数
7	ゴュ カ掛土	エンイルードッチ	観察 スチールテープ等によ	人 料
1.	ブロック撤去	形状寸法	ステールテーノ等によ り測定	全 数
		外観	目視又は潜水士による	全数
		クト 16兄	観察	主
8	鋼矢板·H形鋼	形件子注	スチールテープ等によ	全 数
0.	杭引抜き撤去	11/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1	り測定	工
	THE THAT CHE A	外観	目視又は潜水士による	全 数
		/ I F5/G	観察	
			PARAL	1

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
特による。	管理表を作成し提 出	特による。	
	観察結果を報告		
1 mm	測定表を作成し提出	特による。	
	観察結果を報告		
特による。	測定表を作成し提 出	特による。	
	観察結果を報告		
特による。	管理表を作成し提 出	特による。	
	観察結果を報告		
特による。	管理表を作成し提 出	特による。	
	観察結果を報告		
特による。	測定表を作成し提 出	特による。	
	観察結果を報告		
特による。	測定表を作成し提 出	特による。	
	観察結果を報告		
1 mm	測定表を作成し提 出	特による。	
	観察結果を報告		

23. 仮設工

23-1 仮設鋼矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 仮設鋼矢板・H			
形鋼杭			

23-2 仮設鋼管杭・鋼管矢板工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 先行掘削			
2. 仮設鋼管杭・鋼 管矢板工			

23-3 仮設道路工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 仮設道路工			

24. 雑 エ

24-1 現場鋼材溶接工

	工種	管理項目	測定方法		測定密度
1.	現場鋼材溶接	形状寸法 (のど厚、 脚長、溶接 長等)	スチールテープ、ノギ ス、溶接ゲージ等によ り測定	適	宜
		ひずみ	目視による観察	全	数
		有害な欠陥 の有 無	目視による観察	適	宜
2.	被覆溶接(水中)	形状寸法 (のど厚、 脚長、溶接 長等)	スチールテープ、ノギ ス、溶接ゲージ等によ り測定	適	宜
		外 観	潜水士による観察	全	数
3.	スタッド溶接 (水中)				

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-8-2鋼矢板 ()鋼矢板を 適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-8-1先行掘削を適用す る。
			1-8-2鋼矢板式 ロ鋼管矢 板及び1-10-2鋼杭を適用 する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-13コンクリート舗装工 及び1-14アスファルト舗 装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 mm	測定表を作成し提出	特による。	様式・出来形24-1-1参照
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
1 mm	測定表を作成し提 出	特による。	
溶接長は1cm			
	観察結果を報告		
			24-1-2被覆溶接(水中)を適用する。

24-2 現場鋼材切断工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 現場鋼材切断			
イ) 陸上現場切断	形状寸法	スチールテープ等によ	全 数
		り測定	
	外 観	目視による観察	全 数
口) 水中切断	形状寸法	スチールテープ等によ	全 数
		り測定	
	外 観	目視又は潜水士による	全 数
		観察	

24-3 その他雑工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 清 掃	幅、長さ、 延長	スチールテープ等によ り測定	全数
	外 観	目視又は潜水士による 観察	全 数
2. 削 孔	形状寸法	スチールテープ等によ り測定	全 数
	外 観	目視又は潜水士による 観察	全 数

25. 浚渫工

25-1 ポンプ浚渫エ

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ポンプ浚渫	水 深 (底面)	業務共通仕様書による。 る。又は特による。	特による。
	(法面)	特検測方法による。	測線間隔は特による。

25-2 グラブ浚渫エ

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. グラブ浚渫			

25-3 硬土盤浚渫工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 硬土盤浚渫			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 mm	測定表を作成し提	特による。	
	出		
	観察結果を報告		
1 mm	測定表を作成し提	特による。	
	出		
	観察結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 mm	測定表を作成し提出	特による。	
	観察結果を報告		
1 mm	測定表を作成し提 出	特による。	
	観察結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	業務共通仕様書2-	+ 0	様式・出来形25-1参照
	2-5 平面図に実測	- 規定しない又は	+;設計値より浅いこと
	値を記入し提出	特による。	をいう。
10cm	業務共通仕様書2-	+ 0	- ; 設計値より深いこと
	2-5 平面図に実測	-規定しない又は	をいう。
	値を記入し提出	特による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			25-1-1ポンプ浚渫を適用 する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			25-1-1ポンプ浚渫を適用 する。

25-4 岩盤浚渫工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 砕岩浚渫			

25-5 バックホウ浚渫工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. バックホウ浚渫			

26. 埋立工

26-1 固化工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
固化工			

26-2 埋立土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削			
2. 土砂盛土			

69

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			25-1-1ポンプ浚渫を適用 する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			25-1-1ポンプ浚渫を適用 する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-3固化工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-1土砂掘削を適用す る。
			17-3-2土砂盛土を適用す る。

27. 道路舗装工

27-1 コンクリート舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
コンクリート舗装工			

27-2 アスファルト舗装工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
アスファルト舗装工			

27-3 道路付属工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 縁 石	高さ	レベルにより測定	監督職員の指示による。
	40 77 E		[
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所
2. 区画線及び道路	幅	スチールテープ等によ	監督職員の指示による。
標示	ТШ	り測定	正百师风小儿儿儿
	長さ	スチールテープ等によ	監督職員の指示による。
		り測定	
3. 道路標識	高さ	スチールテープ等によ	1箇所に1回
		り測定	
4. 防護柵	高さ	スチールテープ等によ	監督職員の指示による。
		り測定	
	総延長	スチールテープ等によ	図面に記載する箇所
		り測定	

28. 緑地工

28-1 植生工

工種	管理項目	測定方法	測定密度
植生工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-13コンクリート舗装工 を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-14アスファルト舗装工 を適用する。

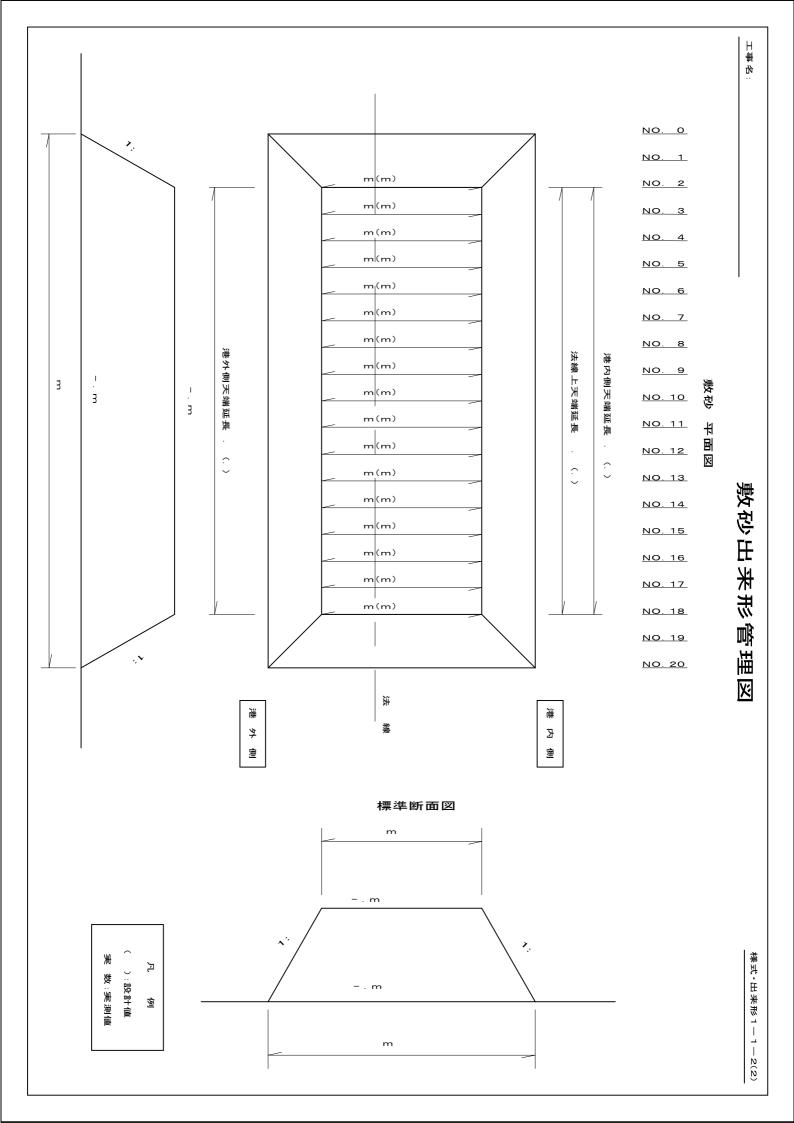
測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提	+規定しない	
1 cm	出 測定表を作成し提	— 5 cm ± 1 cm	
1 cm	出 測定表を作成し提	±10cm	
1 cm	出 測定表を作成し提	± 5 cm	
	出		
1 cm	測定表を作成し提出	+ 3 cm - 2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -10cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-15植生工を適用する。

平成 年 月 日

現場代理人

種別 天 | L-50m | L-40m | L-30m | L-20m | L-10m | 測点 設計値測定値 NO. OO NO. OO NO. OO NO. OO 差 設計値 測定値 NO. 00+0. 00 左 設計値 測定値 差 設計値 NO. OO NO. OO 測定値 測定値 設計値 測定値 差 設計値 測定値 00m 00 00m NO. OO+O. OO 00 00 00 NO. OO 差 2 設計値 測定値 差 設計値 測定値 NO. OO NO. OO 差 設計値測定値 NO. 00+0. 00 NO. OO NO. OO NO. OO 差 設計値 測定値 NO. OO NO. OO NO. OO 00 00m 00m NO. OO 00 00 00 NO. OO NO. OO NO. OO 差 設計値 NO. OO NO. OO NO. OO NO. OO 測定値 差 N-00 L-00 L-00 L-00 R-00 R-00 R-00 R-00 r-00 0 0 N-00



サンドコンパクションパイル出来形管理表

平成 年 月 日

工事名:

											-50: 51	い土八				
	杭番号		1			2			3		1	4		1	5	
杭列	1)(III 7)	天端高	 先端深度	杭長	天端高	- Z 先端深度	杭長	天端高	5 先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	5 先端深度	杭長
1)624	設計値	八州同	儿训小又	171.12	人训问	儿训小汉	176.133	八州间	儿驯水区	176.133	八州同	九圳水汉	111112	八州间	儿训水区	111112
	測定値															
	差															
A列杭		変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量
7 (7 3),0	設計値	スロエハ	<u> </u>	FIII. 10: <u>—</u>	人口里八	<u> </u>	riii) i i	スロエハ	<u> </u>	FIII. O. I	人口里八	<u> </u>	FIII. 10: <u>-</u>	スロエハ	<u> </u>	FIII.0. <u>—</u>
	測定値															
	差															
	•	•			•	•		•			•			•		
	杭番号		1			2			3			4			5	
杭列		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
	設計値															
	測定値															
	差															
B列杭		変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
	差															
	拉来 旦		1			0			2		ı	4			E	
垃圾	杭番号	工提古	1	++ ≡	工場古	2	₩ E	工提古	3	₩ E	工提古	4	₩⋿	工提合	5	₩⋿
杭列		天端高	1 先端深度	杭長	天端高	2 先端深度	杭長	天端高	3 先端深度	杭長	天端高	4 先端深度	杭長	天端高	5 先端深度	杭長
杭列	設計値	天端高	1 先端深度	杭長	天端高		杭長	天端高		杭長	天端高		杭長	天端高		杭長
杭列	設計値測定値	天端高	1 先端深度	杭長	天端高		杭長	天端高		杭長	天端高		杭長	天端高		杭長
	設計値					先端深度			先端深度			先端深度			先端深度	
杭列 ○列杭	設計値 測定値 差		大端深度 変位量Y	杭長	天端高		杭長	天端高		杭長 信芯量	天端高	先端深度	杭長 信芯量	天端高		杭長
	設計値 測定値 差 設計値					先端深度			先端深度			先端深度			先端深度	
	設計値 測定値 差					先端深度			先端深度			先端深度			先端深度	
	設計値 測定値 設計値 測定値					先端深度			先端深度			先端深度			先端深度	
	設計値 測定値 設計値 測定値					先端深度			先端深度			先端深度			先端深度	
	記 設 設 設 設 設 設 之 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	変位量X				先端深度 変位量Y			先端深度 変位量Y		変位量X	先端深度 変位量Y		変位量X	先端深度 変位量Y	
○列杭	記測差 設測差 計定差 杭番 記計値 記計位	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	先端深度 変位量Y	偏芯量	変位量X	先端深度 変位量Y	偏芯量	変位量X	先端深度 変位量Y	偏芯量	変位量X	先端深度 変位量Y	偏芯量
○列杭	計値 設測差 設測差 杭番 計定差 杭番 計定値	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	先端深度 変位量Y	偏芯量	変位量X	先端深度 変位量Y	偏芯量	変位量X	先端深度 変位量Y	偏芯量	変位量X	先端深度 変位量Y	偏芯量
〇列杭 杭列	記測差 設測差 計定差 杭番 記計値 記計位	変位量X 天端高	変位量Y	偏芯量	変位量X 変位量X 天端高	先端深度 変位量Y 2 先端深度	偏芯量	変位量X 天端高	先端深度 変位量Y 3 先端深度	偏芯量 杭長	変位量X	先端深度 変位量Y 4 先端深度	偏芯量	変位量X 天端高	先端深度 変位量Y 5 先端深度	偏芯量
○列杭	記測 記測 抗 記測 抗 記測	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	先端深度 変位量Y	偏芯量	変位量X	先端深度 変位量Y	偏芯量	変位量X	先端深度 変位量Y 4 先端深度	偏芯量	変位量X	先端深度 変位量Y	偏芯量
〇列杭 杭列	計定差 計定差 計定差 計定差 計定差 計定差 計	変位量X 天端高	変位量Y	偏芯量	変位量X 変位量X 天端高	先端深度 変位量Y 2 先端深度	偏芯量	変位量X 天端高	先端深度 変位量Y 3 先端深度	偏芯量 杭長	変位量X	先端深度 変位量Y 4 先端深度	偏芯量	変位量X 天端高	先端深度 変位量Y 5 先端深度	偏芯量 杭長
○列杭 <u>杭列</u>	記測 記測 抗 記測 抗 記測	変位量X 天端高	変位量Y	偏芯量	変位量X 変位量X 天端高	先端深度 変位量Y 2 先端深度	偏芯量	変位量X 天端高	先端深度 変位量Y 3 先端深度	偏芯量 杭長	変位量X	先端深度 変位量Y 4 先端深度	偏芯量	変位量X 天端高	先端深度 変位量Y 5 先端深度	偏芯量 杭長

砂投入管理表

丁重名			
- 71			

			S C P 実 打設長	部				S D 実 打設長	部				全 砂 実 打設長	量 施 打設量	
打設杭NO	設	計	実	施	累計打設量	設	計	実	施	累計打設量	設	計 打設量	実	<u>—</u> 施	累計打設量
	打設長	打設量	打設長	打設量	糸引打政里	打設長	打設量	打設長	打設量	糸削打政里	打設長	打設量	打設長	打設量	糸引打政里
A-1 A-2															
A-2															
0-0															
0-0															
0-0 0-0 0-0 0-0															
0-0															
0-0															
計															
ПІ															

深層混合処理抗出来形管理表

	深層混合処理杭出来形管理表	平成	年	月	日
工事名:	現場代理》	<u>\</u>			

NC	`	打設	位 置 Y方向		杭出来形	;	スラ! 総吐出量	ノ一量	N	`	打設	位 置		杭出来形		スラ!	ノ一量
		X方向	Y方向	天端高	先端深度	改良長	総吐出量	1m当り			X方向	Y方向	天端高	先端深度	改良長	総吐出量	1m当り
	設計値									設計値							
ľ	実測値									設計値 実測値							
	差									差							
										-							
ľ																	
ľ																	
																	
ľ																	1
ľ																	1
ŀ																	
ŀ																	
•																	
ŀ																	
																	
•																	
ŀ																	
																	
ŀ																	
ŀ																	
																	
ŀ																	
}		1	-				1				1	-	1	1	-		
																	
}																	
}																	
																	├
			ļ									ļ			ļ		
																	<u> </u>
																	

深層混合処理杭鉛直度管理表

平成 年 月 日

工事名:

NO. 測定深度	度 (Y 方 向) 分 秒	<u> </u>	⑥ (X 方	测中源库	NO.	L 4\	直度	鉛原	/\/ -		NO	<u> </u>	夏	鉛	/v/ - 1	测点源盘	NO
	<u>(Y 万 问)</u> 分	<u>问) (Y</u> 秒 分	分十	測定深度	NO.	」 <u>问)</u> ┃ 秒	(Y) 分	<u>」 问)</u> 秒	分分	測定深度 	NO.	<u>」 问)</u>	(Y) 分	<u>」 问)</u> 秒	(X) 分	測定深度 	NO.
			7.2			12		12	7.5				,,	- 12	,,		
												<u> </u>					
												 					
		·															
												<u> </u>					
												├──					
												 					
												├					
												 					
																	
	-+				4							 					
												 					
																	
]												
										_			_		_		
					1	ļ						 					
					4	-						├──					
					1	-						├──					
					1							\vdash					

洗掘防止マット出来形管理表

平成 年 月 日

工事名:

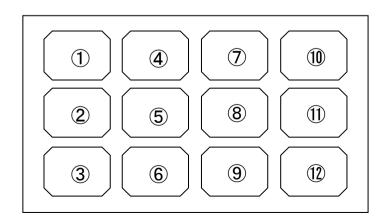
マットNO.	——— 敷	——— 設	 日	#L=n./L 92	測	直 值	7.7 =	備考
				敷設位置	重ね幅	敷設幅	延長	
設計値 実測値								
差								
設計値								
実測値								
差								
設計値								
実測値								
差								
<u>差</u> 設計値								
差								
設計値								
実測値								
差								
設計値								
<u>実測値</u> 差								
設計値								
実測値								
差								
設計値								
実測値								
設計値								
実測値							-	
差								
設計値								
実測値								
差								
設計値								
実測値差								
設計値								
実測値								
差								
<u></u>								

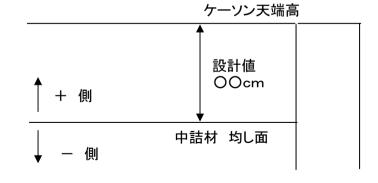
先端側延長 () 重ね幅 港外側延長 ()

砂•石材中詰出来形管理表

工事名:

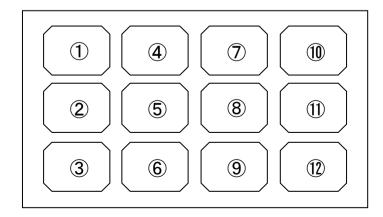
測定位置	ケー	ーソン天端からの	の値	测宁丛墨	ケー	ーソン天端からの	の値
测足证值	実測値	設計值	差	測定位置	実測値	設計値	差
1							
2							
① ② ③ ④							
4							

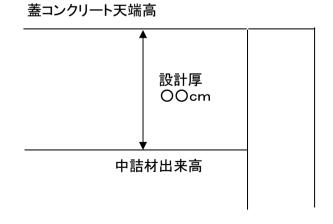




蓋コンクリート出来形管理表

测点从黑	ケー	-ソン天端からの	D値	测点大果	ケー	-ソン天端からの	の値
測定位置	実測値	設計値	差	測定位置	実測値	設計値	差
1							
① ② ③ ④							
3							
4							





鋼矢板出来形管理表

	_	_	
平成	年	月	日

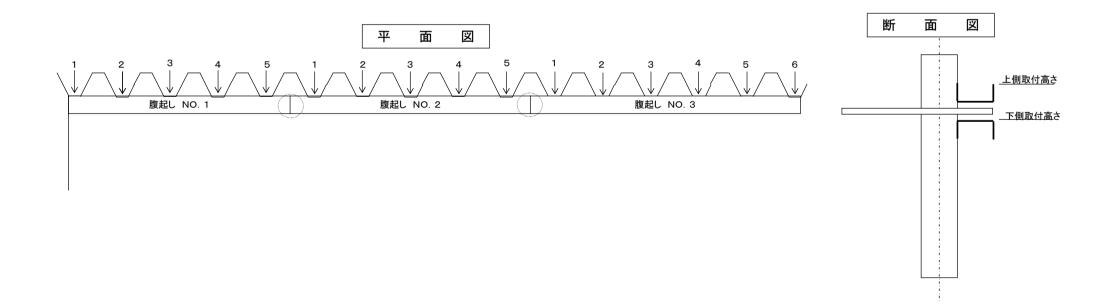
工事名:

番	号	長さ	打設 年月日	矢 板	天 (m) 実測値	端高	矢 板	先 (m)	端高	矢板法籍	線に対す。 (mm)	る出入り	矢板法線に 対する傾斜 実測値(cm)	失板法線方向 の傾斜 実測値(1/1000)	備	考
		(m)	470	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	実測値(cm)	実測値(1/1000)		
-																
-																
1																

腹起出来形管理表

		種 別		高さ	取付長さ	継手の状況
測点			上側	下側	AVIJ IXC	小正 」 マン・ハくのじ
	始点側	設計値 測定値				
NO. 1		差				
NO. I		設計値				
	終点側	測定値				
		差				
		設計値				
	始点側	測定値				
NO. 2		差				
NO. Z		設計値				
	終点側	測定値				
		差				
		設計値				
	始点側	測定値				
NO. 3		差				
140. 3		設計値				
	終点側	測定値				
		差				

位	置	ボルトの取付状況		備考
腹起し NO	ボルト NO	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	71,000	pii) 5
	1			
	2			
NO. 1	3			
110. 1	4			
	5			
	6			
	1			
	2			
NO. 2	3			
NO. Z	4			
	5			
	6			
	1			
	2			
NO. 3	3			
140. 3	4	_	_	
	5			
	6	_	_	



	タイ材出来形管理表	平成 年	月
工事名:		現場代理人	

海側矢板(杭)部

			支保材の	矢板法線に対する	矢板法線に対する	
取付番号	取付高さ	水平度	天端高	取付角度	取付間隔	定着ナットの締付け
NO. 1						
NO. 2						
NO. O						
NO. O						
NO. O						
NO. O						
						•
						•
						•
						+

陸側控矢板(杭)部

取付番号	取付高さ	水平度	支保材の 天端高	矢板法線に対する 取 付 角 度	矢板法線に対する 取 付 間 隔	定着ナットの締付け
NO. 1'						
NO. 2'						
NO. O'						
NO. O'						
NO. O'						
NO. O'						

鋼杭打込記録

工事名:

現場代理人

打設年月日 50cmごとの | 累計打撃回 50cmごとの リバウンド量 | ラム落下高 標高 平均貫入量 摘 杭 番号 打擊回数 要 (回) (m) (回) (cm) (cm) (m) 杭長 板厚 メーカー 打込み時間 杭打機 名称 型式 全 重 量 ラム重量 設計値 実測値 天端高(m) 先端深度(m) 地盤高(m) 打止管理 根入長(m) 総打撃回数 最終貫入量(S) リバウンド量(K) 許容 設計値 実測値 支持力 ef×2WH Ru=---S+1/2K ef:ハンマーの効率=0.5 H:ハンマーの落下高(m) W:ハンマーの重量(kN) 許容 支持力 算定式

鋼杭出来形管理表

年月日

工事名:

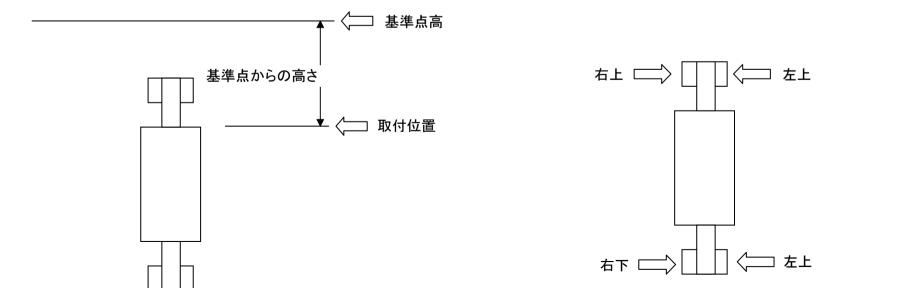
		長さ				頭 中 (r	n)			杭頭	天 (m)	端高	杭	先 端 (m)	高	杭	の 傾 (度)	斜		
番	号	(m)	打設年月日	設記 法線直角 方向	計値 法線平行 方向	実》 法線直角 方向	n) 則値 法線平行 方向	猛線直角 方向	査 法線平行 方向	設計値	実測値	差		実測値			実測値	差	備	考
					ļ															
					ļ															
					1															
		_																		
					1															

電気防食出来形管理表

平成 年 月 日

工事名:

			陽	極取	付					溶			部		
		取付位置			基準点が	らの高さ			溶	妾 長	<u>-</u>		脚	長	
陽極NO	設計値	実測値	差	基準点高	設計値	実測値	差	右上	左上	右下	左下	右上	左上	右下	左下
															<u> </u>
															<u> </u>



電気防食電位測定管理表

<u>平成</u>年月日

工事名:

測 定 水 深					測	定	位	置					備	考
则 足 小 木	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8	P-9	P-10	P-11	P-12	1)用	75

P-7	P-8	P-9	P-10	P-11	P-12
P-1	$\bigcap_{P=2}$	P=3	$\bigcap_{P=4}$	P-5	P=6

路盤出来形管理表

平成 年 月 日

工事名:

0~0

現場代理人

	1# Dil			=		+			1	40			π I	=
 測 点	種 別 _	(1)	2	高 ③	4)	<u>き</u>	6	7	0~0	幅 〇 ~ 〇	0~0		<u>正</u> <u>∃</u> │ 法線上	₹ ○ 線上
昆	各盤設計厚	000	000	000	000	000	000			0. 00m	0. 00m	0. 00m	0. 00m	0. 00m
NO. O(路床高 路盤高 厚さ													
NO. O(
NO. O(+O. O														
NO. O(
	1	l	2)	3)	<u>4</u>)	(!	5 6				
			\downarrow		\downarrow		\downarrow	,	\					

0~0

(O. 00) O. 00		00) (0.00) (0.00) 00 0.00 0.00		
(O. 00) O. 00	(O. OO) (O. O	00) (0.00) (0.00) 00 0.00 0.00) (O. OO) O. OO	
(0. 00)		00) (0. 00) (0. 00) (O. OO) O. OO	
(O. OO) O. OO	(O. OO) (O. O	00) (0.00) (0.00 00 0.00 0.00		

凡 例

():設計値

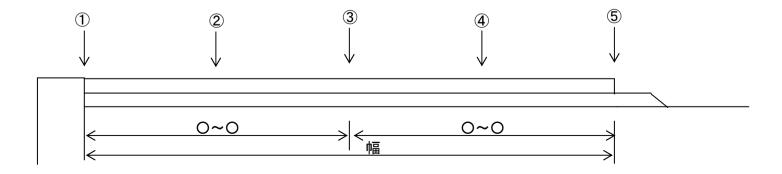
実 数:実測値

舗装出来形管理表

平成 年 月 日

工事名:

	種 別			高		さ				幅		3	延 -	Ę
測点		(1)	2	3	4)	(5)	6	7	0~0	0~0	0~0	①線上	法線上	〇線上
	舗装設計區	列 000	000	000	000	000	000	000	0. 00m	0. 00m	O. 00m	O. 00m	O. 00m	0. 00m
NO. (路盤高 フO 天端高 厚さ													
NO. (
NO. (+O.	00 —													
NO. (00													



								(O. OO) O. OO			
	00)	(O. O.	00)	(O. O.	00)	(O.	00)	(O. OO) O. OO	(O. O.	00)	
(O. O.			00)				00)	(O. OO) O. OO	(O. O .		
	00)	(O.			00)		00)	(O. OO) O. OO	(O.		

凡 例

():設計値

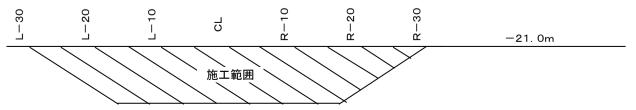
実 数:実測値

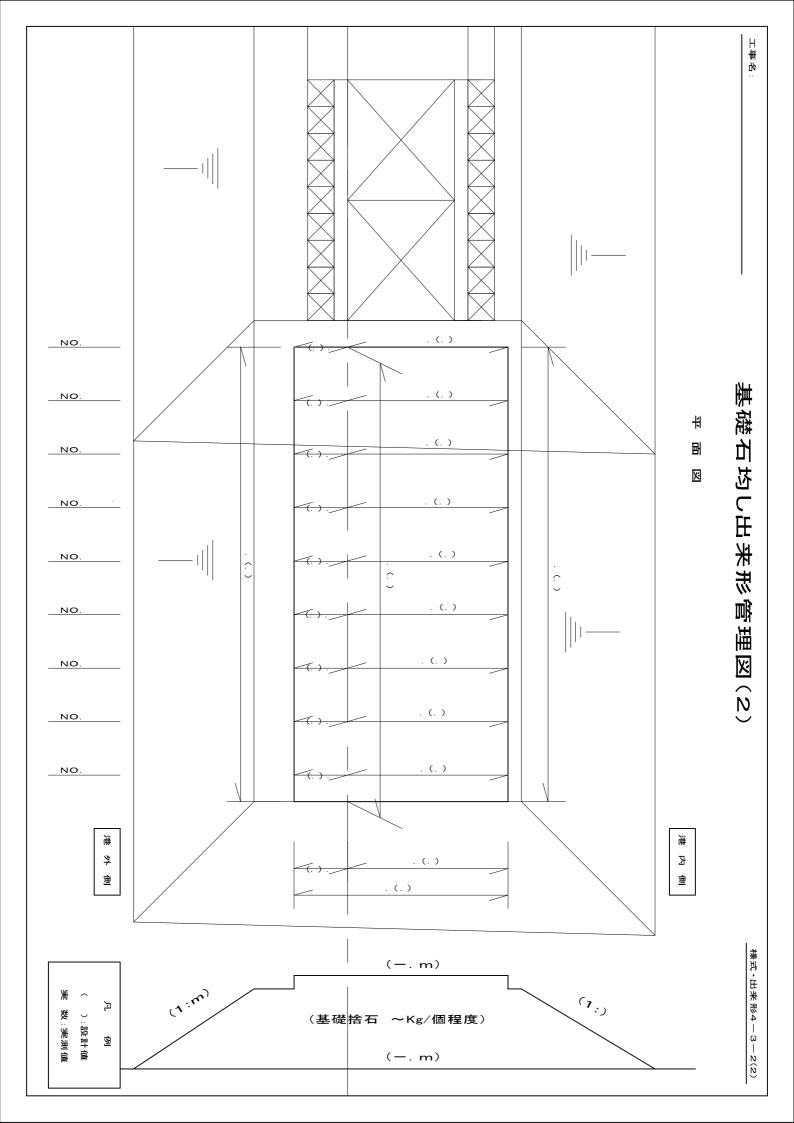
置換材出来形管理表

平成 年 月 日

工事名:

	種別			天	端	高				幅	延 長					
測点		L-30m	L-20m	L-10m	CL	R-10m	R-20m	R-30m	港外側	港内側	港外側	法線上	港内側			
	設計値															
NO. OO	測定値										NO. OO	NO. OO	NO. OO			
	差										1 ≀	₹				
	設計値															
NO. 00+0. 00	測定値															
	差															
	差 設計値															
NO. OO	l 測定値															
	差 設計値															
	設計値															
NO. 00+0. 00	測定値															
	差 設計値										Ī					
	設計値															
NO. OO	測定値															
	差 設計値										00.00	00m	00 m			
	設計値] 0	l Ö	l Ö			
NO. 00+0. 00	測定値												O			
	差 設計値										Ö	0	0			
	設計値										Ŏ	Ŏ	Ŏ			
NO. OO	測定値															
	差 設計値															
	設計値															
NO. OO	測定値															
	差 設計値															
	設計値										<u> </u>					
NO. OO	測定値										<u> </u>					
	差 設計値															
	設計値										_					
NO. OO	測定値										_					
	差										_					
	設計値										₹	₹	₹			
NO. OO	測定値										NO. OO	NO. OO	NO. OO			
	差										1					





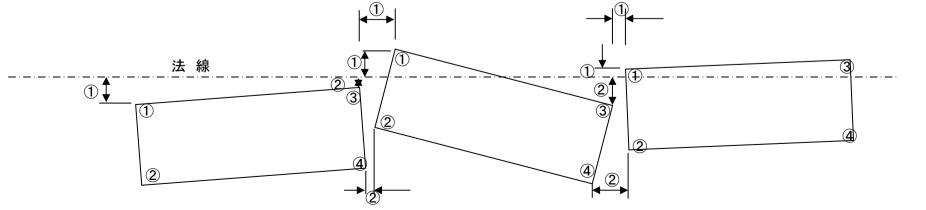
		<u> </u>											
到区区用 O	○号函 ○○段目規 格	箇 所	測定値	検査値	差	箇 所	測定値	検査値	差	箇 所	測定値	検査値	差
〈壁 厚>													
≜ =00	±00												
壁=00													
-チング> =00													
=00	+00 -00												
=00 =00													
:版厚> =OO	+00 -00												
長>	+00 -00												
=OO 幅 >	+00												
=00	-00												
角> =OO	±00												
 0 	+00 -00												
	۰				0 21 22 26 27 9 32 33	$(\land) \land)$	41 42	,a B		L'		- Tag	
				→ •	7 54 55	56 57	58 10					<u> </u>	

ケーソン据付出来形管理表

平成 年 月 日

工事名:

ケーソン		法線に対	対する出	入り			天:	端高さ							
番号	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差	測定位置	測定月日	目地間隔 設計値	実測値	差	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差
								_			① ② ③ ④				
NO. 1								1			2				
											3				
											4)				
														_	
								_							
						<u>(1)</u>				ı(1)					

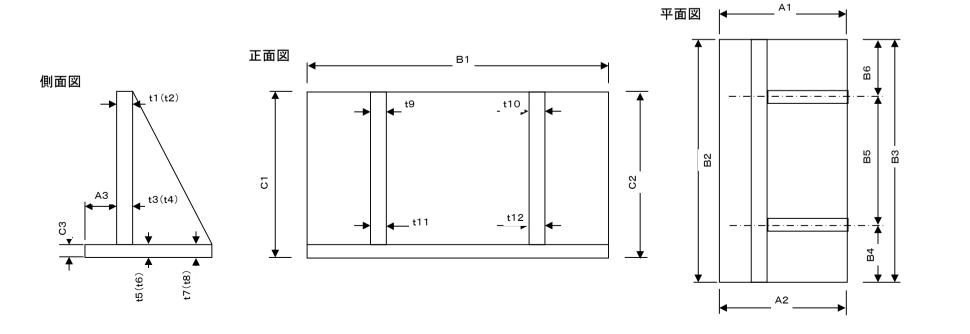


製作番号 設計値 実測値 差	B1	側 B2	下	個川						高さ 凸部幅 右側 左側 上側 下側 右側 左側 上側											凹 部 幅									突起よりの距離								
設計値 実測値		B2	B1 B2 B3 B4 A1 A2		ר		 1	側	左	側	上	側	下	側	右	側	左	側	上	側	下	側	右	側	左	側		上	側			下	側			角線		
実測値		- 52	В3	B4	A1	A2	А3	A4	C1	C2	C3	C4	D1	D2	D3	D4	h1	h2	h3	h4	D5	D6	D7	D8	h5	h6	h7	h8	E1	E2	E3	E4	E5	E6	E7	E8	T1	<u> T2</u>
							-	-	-	1																												₩
									-																													+-
																																						+
									-																													+
									-																													+
									-																													+
																																						+
																																						T
\longrightarrow																																						—
├						 	-	 	-	1	 																	<u> </u>				 						+
\vdash							+	-	+	1																	-	-										+
- 																																						+
																																						T
																																						Ī
																																						I
									-																													+
									-																													+
 									-																													+
																																						t
																																						Ī
									-																													+
-									-																													+
									-																													+
																																						t
																																						T
																																						I
									-																													_
							-	-	-	1																												+
																																						ㅗ
		اما			E	31(B2	2)		(E4)		.1				_		A	1(A2))		. I	ı				la.				B1(B3	3)				ı			
		4	(=0)	4 50	2(24)	<u>ا</u>			(= a) =					ſ	•									平面	図										1			
	ا	E	(E2)	i No.	3(D4) 1(D2)	1		E3	(E4)	·	1		側	面図										-	_										. —	_		
正面	図			. /	\		h 1 (h2)	١						Г								ı			Ī										1	Ī		
4	<u> </u>	_	h3(h4)	′	,	\	111(112)				1 —	<u> </u>	7	_									_															
			- 1			- 1																																
																									(9)											· 		
•	C3(C4)										•	35	0	8									4	,	A1(A3)										:	A2(A4)		
?) (2)	← E5	(E6)	← D7	7(D8)	•		- F7	(F8) —			5	ì	=									C2(C4)		∢ I										:	A N		
(۲ ا		1	['] ⊲ _D ,	5(D6)			_/((E8) —			O	i (ا ت									Ö															

L型ブロック製作出来形管理表

工事名:

\$I //−3	# P		幅				長	さ				高さ						各	部	材厚	さ				
製作		Α1	A2	А3	В1	B2	В3	B4	B5	В6	C1	C2	C3	t1	t2	t3	t4	t5			t8	t9	t10	t11	t12
	設計値																								
	実測値																								
	設計値 実測値 差																								

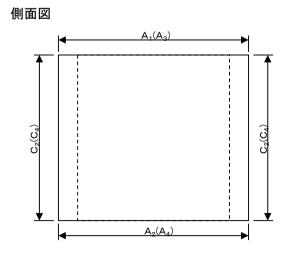


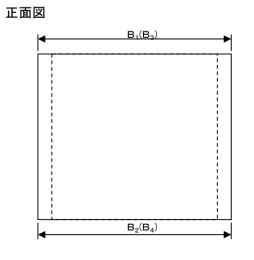
セルラーブロック製作出来形管理表

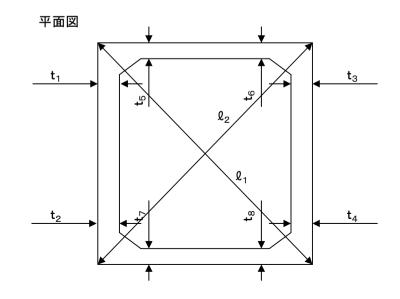
工事名:

現場代理人

製作都	¥ □		ф	届			長	さ			高	خ خ				4	子 部 7	材 厚	さ			対負	角線
		A1	A2	А3	A4	B1	B2	В3	В4	C1	C2	C3	C4	t1	t2	t3	t4	t5	t6	t7	t8	L 1	l 2
	設計値																						
	実測値																						
	実測値 差																						





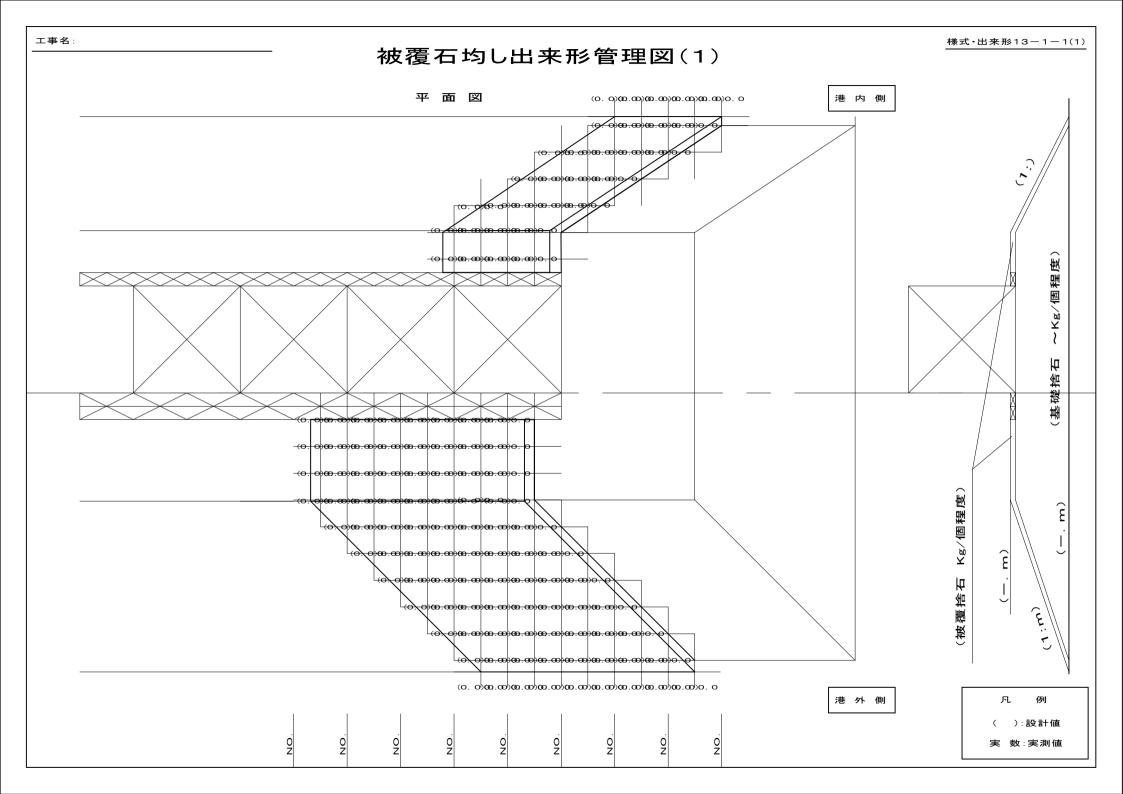


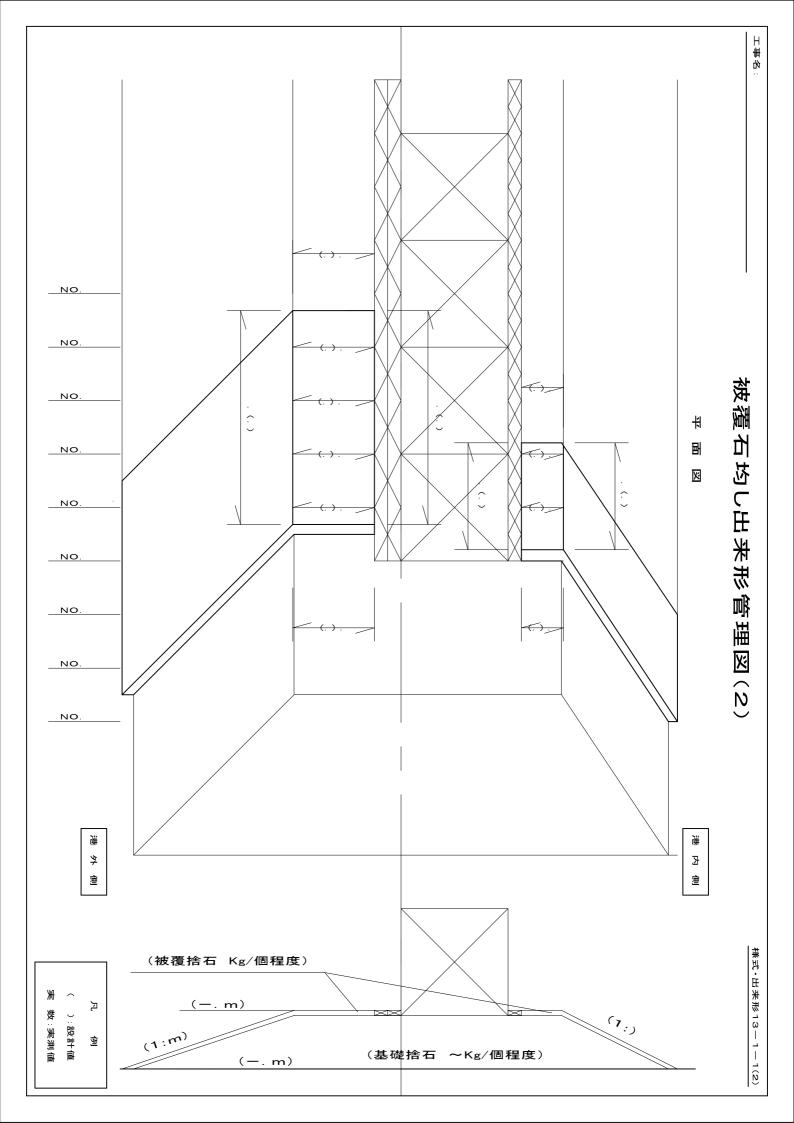
ブロック製作等 外見チェックリスト

工事名:

<u>現場代理人</u>

<u>-</u>	チェ	ッツ	ク	項	目	
製作番号(ブロックNO)	<u> </u>				I	
製作日						
検査日						
大きな気泡はないか						
ひびわれはないか						
ジャンカはないか						
ワイヤー傷はないか						
ブロックのカケはないか						
泥などの付着はないか						
ナンバリングに誤記はないか						
その他						
総評						
	略				図	





根固ブロック製作出来形管理表

平成 年 月 日

工事名:

<u>現場代理人</u>

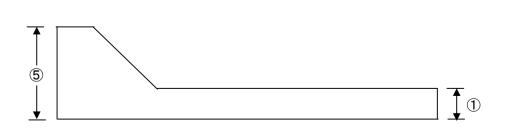
		長	さ				幅			長	<u>さ</u> 左		対	角 線		
製作番号	E		下	12.5	上	側	下		右	側		側	£ 1	l 2	備	‡
1:10:11/15	B1	B2	B3	B4	A1	A2	А3	A4	C1	C2	C3	C4				
設計値 実測値												+				
差												1				
<u>Æ</u>																
						-		_					-			
						1										
						1										
												1				
						-		_					-			
						1										
		-				+						1				
												1				
														1		
•	•		•	•	•	•		1 (10)	•	•	•	•	•	•		
		B1(B2) _		▶			A	1(A2)		>	平面図	 	E	31(B3)		
E面図				'	側面図						十山区					_
A				$\neg $	_					¬ —	Ī					T
														l2		
4				$\widehat{\alpha}$	6					((£ 4)			<		(
C3(C4)				C1 (C2)	C1(C3).						A1 (A3)				l1	;
8				ပ	5					_ ↓ 8	y					_ \

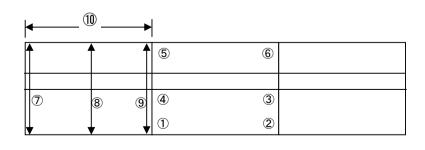
上部コンクリート(防波堤)出来形管理表

工事名:

現場代理人

ケーソン等 NO.			天端,	高(厚 さ))		天	端 幅			延	長			法線に対	する出入り	J
NO.	測定月日	測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差	測点		測定値	差	測点	設計値	測定値	差
		(1)				7				10							
		2				8											
		3				9											
		4															
		5															
		6															



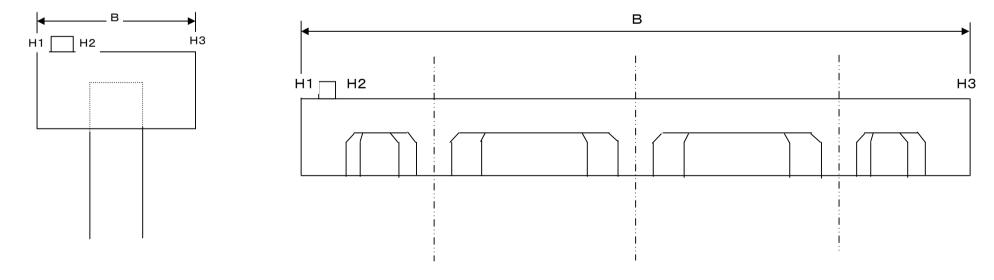


上部コンクリート(岸壁)出来形管理表

工事名:

現場代理人

			天	端	高	(厚 - 7	7)			天	端	幅	3	延 县	Ę.	法	線に対す 出入り	·る
測点		H1			H2			Н3			В			L			出入り	
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
																		-
																		
																		<u> </u>
																		
																		
																		
																		<u> </u>



平成 年 月 日

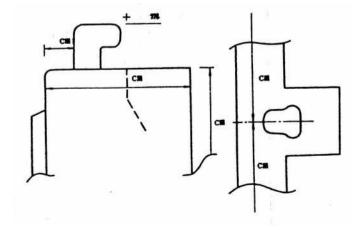
係船柱出来形管理表

工事名:

<u>現場代理人</u>

番号	岸壁前面に対する出入り	天端高	中心間隔	基礎= 幅	ンクリート(長さ	(直柱) 高さ	備	考
基点0より	_	_	_	<u> </u>				
-								

係船柱測定位置図



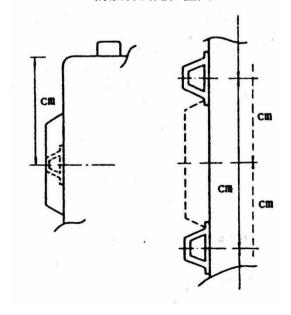
防舷材出来形管理表

工事名:

現場	代理人

番 号 基点Oより	取付高さ	中心間隔	備
基点0より		_	

防舷材測定位置図

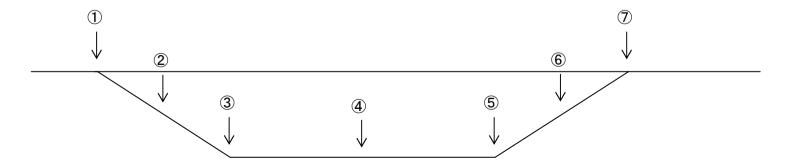


土砂掘削出来形管理表

工事名:

<u>現場代理人</u>

	種別			高		さ				幅		3	Œ -	툿
測点		1	2	3	4	(5)	6	7	0~0	0~0	0~0	〇線上	法線上	〇線上
	設計値											NO 00	NO 00	NO 00
NO. OO	測定値差											NO. OO	NO. OO	NO. OO
	左											(((
NO. OO												†		
												1		
]		
NO. OO														
												1		
										†		1		
												1		
]		
												1		
										ļ		1		
												4		
												1		
												1		
												1		
]		
												1		
													,	
												\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	\ \ \	\ \ \
	-											NO. OO	NO. OO	INO. OO



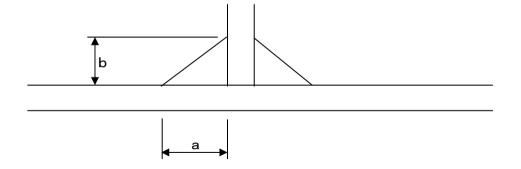
すみ肉溶接出来形管理表

平成 年 月 日

工事名:

現場代理人

测宁	個所	溶接	脚長	溶接長	測字	图所	溶接	脚長	溶接長
		а	b	冶技区	则是		а	b	/台技区
	設計値					設計値			
	実測値					実測値			
	差					差			
					[
					ļ				
					1				



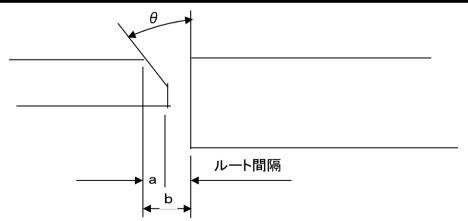
突合わせ溶接出来形管理表

平成 年 月 日

工事名:

<u>現場代理人</u>

`ou &	/m =r	溶	接脚	長	\rightarrow \right	++-		, , , , , ,	/m=r	溶	接脚	長	`. 	++	
	個所	Α	В	θ	浴	接	長		個所	A	В	θ	溶	接	長
	設計値								設計値						
	実測値								実測値 差						
	差								差						
								ļ							



鉄筋フレア溶接出来形管理表

平成	午	8	
	-		

工事名:

現場代理人

個所	鉄筋径 D	のど厚 a	溶接長	!個所	鉄筋径 D	のど厚 a	溶 接 長
設計値 実測値 差				設計値 実測値 差			
差				差			

浚渫出来形管理表

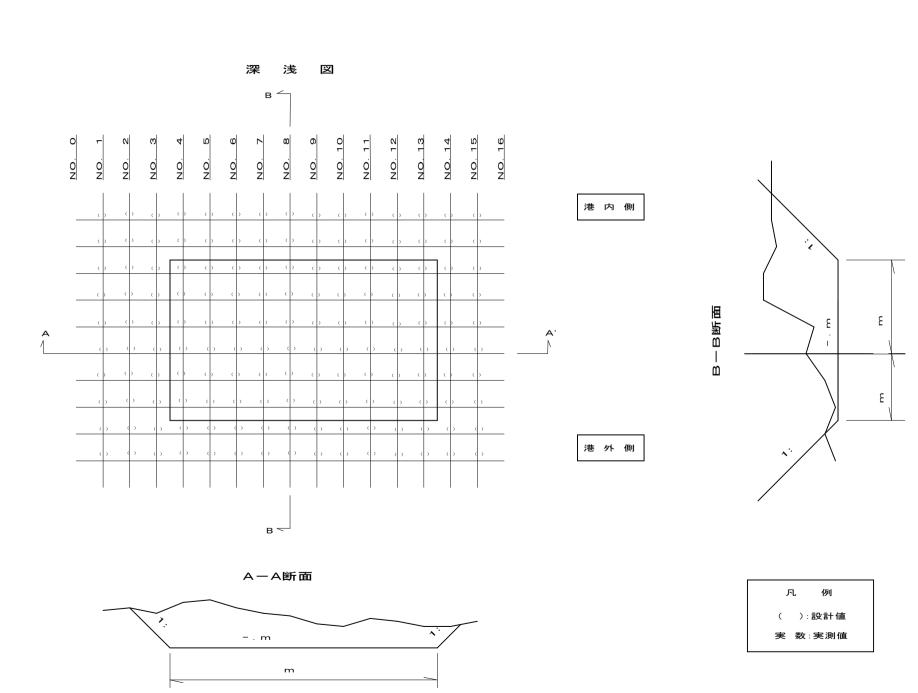
平成 年 月 日

工事名:

<u>現場代理人</u>

弾作いつ		ı	1	1	1	ı	1	1		I		I		
測点NO.		NO. OO	NO. OO	NO 00	NO. OO	NO 00	NO. OO	NO 00						
PE放HNO		NO. 00	+0. Om	NO. 00	+0. Om	NO. 00	+0. Om	NO. 00	NO. OO	NO. 00				
距離NO.	=n.=1 /±													
	設計値	15.20												
+00. Om		15.30												
	差	-0.10												
	設計値													
+00. Om														
	差													
	設計値													
+00. Om														
	差													
	設計値													
+00. Om						1								
	差 設計値													
1000														
+00. Om														
	差 設計値													
+00. Om														
+00. Om	測定値差													
	設計値						<u> </u>							
+00. Om														
TOO. OIII	差						<u> </u>							
	左 設計値													
+00. Om														
. 00. 0111	差													
	左 設計値													
+00. Om														
. 00. 0111	差													
	左 設計値													
+00. Om														
7 0 0	差		 											
	左							I				Ī		

浚渫出来形管理図



港湾工事品質管理基準

凡例

(特):図面及び特記仕様書 (共);土木工事共通仕様書

港湾工事品質管理基準

港湾工事品質管理基準

目 次

1.	± 1-1	一般事項	1
2.	石材等 2-1 2-2 2-3	砂 砂利・砕石 石	3 3 3
3.	骨 材 3-1 3-2 3-3 3-4 3-5	路盤材 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	5 7 9 9
4.	木 材 4-1	一般事項	11
5.	鋼 材 5-1 5-2 5-3 5-4 5-5	鋼矢板及び鋼杭 鋼板及び形鋼等 棒 鋼 控 エ コンクリート舗装用鋼材	11 13 13 15 15
6.	6 - 1 6 - 2	ト及び混和材料 セメント 混和材料 コンクリート用水	17 17 17
		トコンクリート製品 一般事項	19

8. 瀝青材料	
8-1 舗装用アスファルト材 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
8-2 プライムコート及びタックコート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
	10
9. 芝・樹木等	
9-1 芝及び種子 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
9-2 植木等	21
9-2 他小寺	21
10 日 44十十年	
10. 目地材料 10-1 目地材 ···································	0.1
	21
10-2 コンクリート舗装用目地材 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
and the A. I. I. I. I.	
11. 防食材料	
11-1 アルミニウム合金陽極 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
11-2 防食塗装	23
11-3 被覆防食材料	25
12. 防舷材	
12-1 ゴム防舷材 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
13. 係船柱	
13-1 係船柱	27
14. 車止め・縁金物	
14-1 車止め・縁金物	27
15. マット	
15-1 アスファルトマット	29
15-2 繊維系マット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
15-3 合成樹脂系マット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
15-4 ゴムマット	29
16. コンクリート	
16-1 レディーミクストコンクリート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
16-2 コンクリートミキサー船 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
16-3 現場練りコ ンクリート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
16-4 暑中コンクリート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37
16-5 寒中コンクリート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37

16 - 6	水中コンクリート	39	9
16 - 7	袋詰コンクリート	39	9
16-8	水中不分離性コンク	クリート ・・・・・・・ 39	9
16-9		クリート ・・・・・・・・・・・・・・・・ 39	-
16-10		39	-
10 10	ロンノノ 下間表	0.	J
17 アスフ	ァルトコンクリート		
		4	1
1i - 1	ノヘノブルド舗衣	4.	1
18. その他			
18-1	6° 1° 1° 1 ° 1	4:	0
			-
18 - 2			-
18 - 3			
18 - 4		示 ······ 45	
18 - 5		4;	3
18 - 6		4;	3
18 - 7		4:	5
18 - 8		4:4	5
18 - 9	汚濁防止膜 ・・・・・	4;	5
		[参 考]	
様式・品質	3-1 : 骨杉	オのふるい分け試験(JIS A 1102) ······	
様式・品質		玄材形状管理表(例) ·····	
	, , , , , , ,	紙)防舷材形状測定箇所(例) ······	
様式・品質		ノクリート試験成績表(試験練用) ・・・・・・	
様式・品質		ンクリート強度(圧縮 曲げ)管理表 ······	
様式・品質			
水八 四貝	10-3 ; = 2	ノクリート強度(圧縮 曲げ)管理図 ・・・・・・	

1. 土

1-1 一般事項

一 一般争項			
区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)埋立材	材質	種 類 品 質	観 察 特 による。
2) 裏埋材 3) 盛土材	材質	種 類 品 質	観 察 特による。
4) 路床材	材質	外 観 粒 度	観 察 JIS A 1204
		含水量 塑性指数(425 µ m ふる い通過分)	JIS A 1203 JIS A 1205
	修正 CBR	必要な値を満足してい ること。	
	突固め	最大乾燥密度、最適含 水比	
	締め固め	締め固め密度	含水量試験JIS A 1203 CBR 試験又は平板載荷 試験JIS A 1211、JIS A 1215 締固め密度JIS A 1214
5)採取土	材質	種 類 外 観 品 質	観 察 観 察 特による。

1

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
特による。	搬入前、採取地毎	特による。	
	に1回		
特による。	施工中適宜		
特による。	搬入前、採取地毎	試験成績表を提出	
	1回		
特による。	搬入時、施工中適		
44.	宜	3 h PA D (++++) I P I I I	
特による。	搬入前、採取地每	試験成績表を提出	
#+) - L - 7	に1回	沙 殿 上体 士 ナ 田 川	
特による。	搬入前、採取地每	試験成績表を提出	
壮 フトフ	に1回 搬入前、採取地毎	針除卍徳主ナ用山	
特による。	版八削、採取地世 に1回	試験成績表を提出	
特による。	搬入前、採取地每	試験成績表を提出	
1110000	に1回	PNANAMA C JEH	
特による。	搬入前、採取地毎	試験成績表を提出	
	に1回	T TO	
特による。	1,000m ² に1箇所	記録紙及び管理表	
	1,000m (C I 回//)	を作成し提出	
特による。	施工中適宜		
特による。	施工中適宜		
特による。	搬入前、採取地每	特による。	
	に1回		

2

2. 石材等

2-1 砂

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)敷砂 2)改良杭材 3)置換材	材質	外 観 種類、品質及び粒度	観 察 IIS A 1102
3) 直换的			JIS A 1102 JIS A 1204 特による。
		率	
4) 中詰砂	材質	種類	観 察 観 察
		外観	
		最大粒径	観察
		単位体積重量	特による。
5) 載荷材	材質	外観	観察
		種類、品質及び粒度	JIS A 1102 JIS A 1204
		単位体積重量	特 による。

2-2 砂利・砕石

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 砕 石	材質	外観	観察
		粒度	JIS A 1102 JIS A 1204
		比 重 吸水量	JIS A 1110 JIS A 1110

2-3 石

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)石	材質	外観	観察
		石の種類	観察
		比 重	JIS A 5006
		規定外質量の比率	観察

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
異物の混入のないこと。	施工中適宜		
<u>と。</u> 特による。	搬入前、採取地毎 に1回	試験成績表を提出	
特による。	特による。	試験成績表を提出	
特による。	施工中適宜		
異物の混入のないこと。	施工中適宜		
特による。	施工中適宜		
特による。	搬入前、採取地毎 に1回	試験成績表を提出	湿潤又は飽和状態の 材料について単位体 積重量を確認する。
異物の混入のないこと。	施工中適宜		
特 又はJIS の規定に よる。	搬入前、採取地毎 に1回	試験成績表を提出	
特による。	搬入前、採取地毎 に1回	試験成績表を提出	湿潤又は飽和状態の 材料について単位体 積重量を確認する。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
異物の混入のないこ	施工中適宜		
ع ا			
特による。	搬入前産地毎に1	試験成績表を提出	
	回		
特による。	搬入前産地毎に1	試験成績表を提出	
特による。	搬入前産地毎に1	試験成績表を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共第2編 3-3-4による。	施工中適宜		
特による。	施工中適宜		
特による。	産地毎に1回	試験成績表を提出	石質の変化がない場合は1年以内の試験 成績表とする。
特 及びJIS A 5006に よる。	施工中適宜		

3. 骨 材

3-1 セメントコンクリート用骨材

3 1 ピアンドコンノツ 下面自物			
区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)JIS工場製品	骨材	使用材料の品質の確認	製造工場の試験成績表により確認
 JIS工場製品以外・現場練りコンクリート 	骨 材	種類及び粗骨材の最大 寸法	観 察
		粒 度	共第1編 表2-3
		比重及び吸水量(細骨 材)	共 第1編 表2-3
		比重及び吸水量(粗骨 材)	共 第1編 表2-3
		粘土塊含有量	共 第 2 編 表 3-3
		微粒分量試験で失われ る量	
		比重1.95の液体に浮く ものの量	共第2編 表3-3
		塩化物量	JIS A 5308 付属書 1 JIS A 5002
		やわらかい石片の含有 量(舗装用粗骨材)	共 第 2 編 表 3-3
		有機不純物の量(細骨 材)	共第2編 表3-3
		安定性(耐久性)	共 第 2 編 表 3-3
		骨材のアルカリシリカ 反応(化学法)	共 第 2 編 表 3-3
		骨材のアルカリシリカ 反応(モルタルバー法)	共第2編 表3-3
		海砂の塩分含有量	JIS A 5308 付属書 1 JIS A 5002

5

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS工場製品以外・現	製造前及び使用材	試験成績表を提出	JIS A 5308 参照
場練りコンクリート を適用する。	料の変更時		
特による。	搬入時適官		
JIS A 5005	14X7 C. 17 X22 11.		
JIS A 5011			
共 第 2 編 表 3-1	配合設計前	試験成績表を提出	様式・品質3-1参照
JIS A 5005 JIS A 5011-1	配合設計前	試験成績表を提出	様式・品質3-1参照
JIS A 5011-1 JIS A 5011-2			
JIS A 5011-3			
JIS A 5011-4			
JIS A 5005	配合設計前	試験成績表を提出	様式・品質3-1参照
JIS A 5011-1 JIS A 5011-2			
JIS A 5011-3			
JIS A 5011-4			
共第 2編 表3-2	配合設計前	試験成績表を提出	
共 第 2 編 表 3-2	配合設計前	試験成績表を提出	
共第2編 表3-2	配合設計前	試験成績表を提出	
共 第 2 編 表 3-2	配合設計前	試験成績表を提出	
共 第2編 表3-2	配合設計前	試験成績表を提出	
共第2編 表3-2	配合設計前	試験成績表を提出	コンクリート標準示 方書参照
	配合設計前	試験成績表を提出	砕砂、砕石等、JIS
			規格のあるもの以外 の骨材については、
			コンクリート標準示
			方書参照
無害	配合設計前	試験成績表を提出	2法のうち、いずれ かを選び試験する。
無害	配合設計前	試験成績表を提出	
鉄筋コンクリートの	配合設計前	試験成績表を提出	
場合は、細骨材の絶			
乾質量に対し、NaCl			
に換算して0.1%以下			

6

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
		すりへり減量(舗装用 粗骨材)	共 第 2 編 表 3-3

3-2 路盤材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)下層路盤材 (砕石、切込砕石、	材質	外観	観察
砂利及び切込砂利)		粒度	JIS A 1102 JIS A 1204
		含水量	JIS A 1203
		塑性指数(425μmふる い通過分)	JIS A 1205
		必要な値を満足してい ること。	
	突固め	最大乾燥密度、最適含 水比	
	締め固め	締め固め密度	含水量試験JIS A 1203 CBR 試験又は平板載荷 試験 JIS A 1211、JIS A 1215 締固め密度JIS A 1214
2)上層路盤材 (粒度調整材)	材質	外観	観察
		粒度	JIS A 1102 JIS A 1204
		含水量	JIS A 1203
		塑性指数(425μmふる い通過分)	JIS A 1205
	修正 CBR	必要な値を満足してい ること。	
	突固め	最大乾燥密度、最適含 水比	JIS A 1210 (C, D, E)
	締め固め	締め固め密度	含水量試験JIS A 1203 CBR 試験又は平板載荷 試験JIS A 1211、JIS A 1215 締固め密度JIS A 1214

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
	配合設計前		砕石等、JIS 規格の あるもの以外の骨材 については、コンク リート標準示方書参 照

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	搬入時、施工中適宜		
特による。	搬入前、採取地每 1回	試験成績表を提出	
特 による。	搬入前、採取地每 1回	試験成績表を提出	
アスファルト舗装6以下 コンクリート舗装6以下	搬入前、採取地每 1回	試験成績表を提出	
アスファルト舗装20%以上 コンクリート舗装20%以上	搬入前、採取地每 1回	試験成績表を提出	
特による。	搬入前、採取地每 1回	試験成績表を提出	
特による。	1,000m ² に1箇 所、ただし施工面 積が 1,000m ² 以 下のものは1工事 当たり1箇所以上	記録紙及び管理表を作成し提出	
特による。	搬入時、施工中適宜		
共 第 2 編 表 3-4	搬入前、採取地每 1回	試験成績表を提出	
特による。	搬入前、採取地每 1回	試験成績表を提出	
アスファルト舗装4以下 コンクリート舗装4以下	搬入前、採取地每 1回	試験成績表を提出	
アスファルト舗装80%以上コンクリート舗装80%以上	搬入前、採取地每 1回	試験成績表を提出	
特による。	搬入前、採取地每 1回	試験成績表を提出	
特による。	1,000m ² に1箇 所、ただし施工面 積が 1,000m ² 以 下のものは1工事 当たり1箇所以上	記録紙及び管理表 を作成し提出	

3-3. アスファルトコンクリート用骨材

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) アスファルト コンクリート用 骨材	材質	種類及び最大粒径 粒 度 比重及び吸水量 粗骨材のすりへり減量	観察 JIS A 1102 JIS A 1204 JIS A 5001 JIS A 5008 JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 1121

3-4 フィラー

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) フィラー	材質	種類及び最大粒径 粒 度	観 察 JIS A 1102
			JIS A 1204 JIS A 5001 JIS A 5008

3-5 安定処理路盤材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) セメント安定 処理路盤	材 料		
, , , , , , , , , , , , , , , , ,	配合	配合試験	特による。
	粒度	混合物の粒度試験	JIS A 1102
	締め固め	締め固め密度	締固め密度測定JIS A 1214
	含水比	含水比試験	JIS A 1203
	セメント量	セメント量試験	舗装施工便覧
2) アスファルト 安定処理路盤	締め固め	締め固め密度	舗装施工便覧
	締め固め以 外		

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	搬入時適宜	(H) (12)	DIA 3
共 第 2 編 表 3-5	当初及び変動が認められる場合	試験成績表を提出	
特による。	当初及び変動が認 められる場合	試験成績表を提出	
特による。	当初及び変動が認 められる場合	試験成績表を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	搬入時適宜		
共第2編 表3-6	当初及び変動が認められる場合	試験成績表を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
			6-1セメントを適用す
			る。
特による。	配合毎	特による。	
特による。	特による。	特による。	
特による。	1,000m ² に1箇	記録紙及び管理表	
	所、ただし施工面	を作成し提出	
	積が 1,000m ² 以		
	下のものは1工事		
	当たり1箇所以上		
特による。	特による。	特による。	
特による。	特による。	特による。	
特による。	1,000m ² に1箇	記録紙及び管理表	
	所、ただし同一配	を作成し提出	
	合の合材100 t 未満		
	のものは1工事1		
	回以上		
			17-1アスファルト舗
			装を適用する。

4. 木 材

4-1 一般事項

区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 木 材	材 質	外観・種類	観察
		品 質	特による。

5. 鋼 材

5-1 鋼矢板及び鋼杭

5-1 釧犬似及び鰂仇					
区 分	管理項目	管理内容	管理方法		
1)鋼矢板	化学成分、 機械的性質 外 観 形状寸法 溶接部	に適合していること。 割れ、ブローホール及	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 観察 製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 JIS Z 3104 放射線透 過試験		
2)鋼管矢板	本体の化学成分、機械的性質 外 観 形状寸法 溶接部	JIS に適合していること。 有害な傷、変形等がないこと。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確認 観察 製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 JIS Z 3104 放射線透 過試験		
3) 鋼管杭	本体の化学成分、機械的性質 外 観 形状寸法 溶接部	JIS に適合していること。 有害な傷、変形等がないこと。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確認 観察 製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 JIS Z 3104 放射線透 過試験		

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
	施工中適宜		
特による。	搬入前、施工中適宜	特による。	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
> 4,,,=1,,,	0.47 = 22 (2.4		1
JIS A 5523	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査	
JIS A 5528	Hon i nit 人 坐L	証明書)を提出	
JIS A 5523	搬入時、全数		
JIS A 5528	+60. → n±:	李松子生士 /松木	
JIS A 5523	搬入時	試験成績表(検査	
JIS A 5528 特による。	特による。	証明書)を提出 試験成績表(検査	
付による。	付による。	証明書)を提出	
		証明音)を1定山	
IIS A 5530	搬入時、ロット毎	討驗成績事 (栓本	
J13 V 2220	が入れて、ロント西	証明書)を提出	
		皿の音/でル田	
IIS A 5530	搬入時、全数		
J15 N 0000	がなってい、主気		
IIS A 5530	搬入時	試験成績表(検査	工場出荷時の測定表
J15 11 0000	1/4/2 3/1/4	証明書)を提出	を含む
特による。	特による。	試験成績表(検査	5 1 5
		証明書)を提出	
		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
JIS A 5525	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査	
		証明書)を提出	
JIS A 5525	搬入時、全数		
JIS A 5525	搬入時	試験成績表(検査	工場出荷時の測定表
		証明書)を提出	を含む
特による。	特による。	試験成績表(検査	
		証明書)を提出	

11

港湾工事品質管理基準

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
4) H形鋼杭	化学成分、 機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確
	外観	有害な傷、変形等がないこと。	観察
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法 に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確
	溶接部	割れ、ブローホール及びのど厚並びにサイズの過不足等有害な欠陥がないこと。	JIS Z 3104 放射線透 過試験

5-2 鋼板及び形鋼等

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)鋼板、形鋼等	化学成分、 機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観察
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法 に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確
			認

5-3 棒 鋼

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)普通棒鋼	化学成分、 機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表 により確認
			JIS G 3112 又は JIS G 3101 公的機関の 試験成績表により確認
	外観	有害な傷、変形等がないこと。	観察
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法 に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確
2)異形棒鋼	化学成分、 機械的性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 JIS G 3112 公的機関の 試験成績表により確認
	外観	有害な傷、変形等がないこと。	観察
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法 に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS A 5526	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	
JIS A 5526	搬入時、全数		
JIS A 5526	搬入時	試験成績表(検査 証明書)を提出	
特による。	特による。	試験成績表(検査 証明書)を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS G 3101	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	
JIS G 3101	搬入時、全数又は 結束毎		
JIS G 3192 JIS G 3193 JIS G 3194	搬入時	試験成績表(検査 証明書)を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS G 3112	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査	
JIS G 3101		証明書)を提出	
JIS G 3117			
JIS G 3112		試験成績表を提出	製造工場の試験成績
JIS G 3101			表により確認できな
JIS G 3117			い場合
JIS G 3112	搬入時、全数又は		
JIS G 3101	結束毎		
JIS G 3117			
JIS G 3191	搬入時	試験成績表(検査	
JIS G 3117		証明書)を提出	
JIS G 3112	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査	
JIS G 3117		証明書)を提出	
JIS G 3112		試験成績表を提出	製造工場の試験成績
JIS G 3117			表により確認できな
			い場合
JIS G 3112	搬入時、全数又は		
JIS G 3117	結束毎		
JIS G 3191	搬入時	試験成績表(検査	
JIS G 3117		証明書)を提出	

5-4 控 工

-			
区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)腹起し			
2) タイロッド	本体・附属 品の化学成 分、機械的 性質	(一般構造用圧延鋼材 の場合) JIS に適合し ていること。 (高張力鋼材の場合)	製造工場の試験成績表 により確認 製造工場の試験成績表
		機械的性質は共第1編 2-6-5に、化学成分は 特及び承諾した規格に 適合していること。	(検査証明書)により確認
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観察
	形状寸法	特の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確
	組立引張試験	特 に適合していること。	特による。
3) タイワイヤー	本体・附属 品の化学成 分、機械的 性質	JIS に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 認
	被覆材	特 の規格に適合していること。	製造工場の試験成績表 により確認
	外 観	有害な傷、変形等がないこと。	観察
	形状寸法	特の形状寸法に適合し ていること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確
	組立品引張 試験	特 に適合しているこ と。	特による。

5-5 コンクリート舗装用鋼材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) コンクリート舗	装用鋼材		
イ) スリップバー			
ロ) タイバー			
ハ)チェアー			
ニ) クロスバー			
ホ)鉄 網	化学成分、	JIS に適合しているこ	製造工場の試験成績表
	機械的性質	と。	(検査証明書)により確
			JIS G 3112 公的機関の
			試験成績表により確認
	t t den	() () () () () () () () () ()	As a second
	外 観	有害な傷、変形等がな	観察
		いこと。	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
			5-2鋼板及び形鋼等を 適用する。
JIS G 3101	ロット毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	
機械的性質は共第2編表3-7、化学成分は特及び承諾した規格とする。	ロット毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	
異常が認められない こと。	搬入時、全数		
監督職員が承諾した 図面	搬入時	試験成績表(検査 証明書)を提出	
特による。	特による。	試験成績表を提出	
JIS G 3502 JIS G 3536 JIS G 3506 IIS G 3521	ロット毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	
JIS K 6922-2	ロット毎	試験成績表を提出	
異常が認められない こと。	搬入時、全数		
監督職員が承諾した 図面	搬入時	試験成績表(検査 証明書)を提出	
特による。	特による。	試験成績表を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
			5-3棒鋼を適用する。
JIS G 3551	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査	
		証明書)を提出	
JIS G 3551		試験成績表を提出	製造工場の試験成績
			表により確認できな
			い場合
JIS G 3551	搬入時、全数又は		
	結束毎		

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
	形状寸法	JIS 及び特の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確

6. セメント及び混和材料

6-1 セメント

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)JIS工場製品	セメント	使用材料の品質の確認	製造工場の試験成績表により確認
2) JIS工場製品以 外・現場練りコ ンクリート	外 観 化学成分	セメントの種類 JIS に適合しているこ と。	観 察 製造工場の試験成績表 により確認

6-2 混和材料

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)JIS工場製品	混和材料	使用材料の品質の確認	製造工場の試験成績表により確認
2) JIS工場製品以 外・現場練りコ ンクリート	化学成分		製造工場の試験成績表 により確認土木学会規 準D.1

6-3 コンクリート用水

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)JIS工場製品	水	使用材料の品質の確認	製造工場の試験成績表により確認
2) JIS工場製品以 外・現場練りコ	化学成分	コンクリートの強度に 対する影響	JIS A 5308 付属書 9
ンクリート水 (上水以外)		有害物の含有量	公的機関の試験成績表 により確認

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS G 3551	搬入時	試験成績表(検査 証明書)を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS工場製品以外・現 場練りコンクリート	製造前及び使用材 料の変更時	試験成績表を提出	JIS A 5308 参照
参照リコングリートを適用する。	付の変更時		
	搬入時適宜		
JIS R 5210	1箇月1回又は搬	監督職員が指示し	
JIS R 5211	入の都度	たとき試験成績表	
JIS R 5212		(検査証明書)を提	
JIS R 5213		出	
JIS R 5214			

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS工場製品以外・現		試験成績表を提出	JIS A 5308 参照
場練りコンクリート を適用する。	料の変更時		
特による。	1箇月1回又は搬	監督職員が指示し	コンクリート標準示
JIS A 6201 JIS A 6202	入の都度		方書参照D.1;コンク リート用流動化剤品
JIS A 6204		出	質規準
JIS A 6206			

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS工場製品以外・現 場練りコンクリート	製造前及び使用材 料の変更時	試験成績表を提出	JIS A 5308 参照
を適用する。	., .,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		
JIS A 5308 付属書 9	配合設計前	試験成績表を提出	
JIS A 5308 付属書 9	配合設計前	試験成績表を提出	コンクリート標準示 方書参照

7. セメントコンクリート製品

7-1 一般事項

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) コンクリート杭	外 観	有害な傷がないこと。	観察
2) コンクリート			
矢板	形状寸法	JIS 及び 特 の形状寸法	製造工場の試験成績表
3) 境界ブロック		に適合していること。	(検査証明書)により確
			認

8. 瀝青材料

8-1 舗装用アスファルト材

区分 管理項目 管理内容 管理方法 1) アスファルトコンクリート舗装用材(アスファルト) 化学成分 特の品質であること。 石油アスファルト JIS K 2207 又は製造工場の試験成績表により確認	0 1 端表用チベンチルト刊					
コンクリート 舗装用材 JIS K 2207 又は製造工 場の試験成績表により	区 分	管理項目	管理内容	管理方法		
	コンクリート 舗装用材		特の品質であること。	JIS K 2207 又は製造工 場の試験成績表により		

8-2 プライムコート及びタックコート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) タックコート・	化学成分	JIS 及び 特 の形状寸法	製造工場の試験成績表
プライムコート		に適合していること。	により確認

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS A 5372 IIS A 5373	搬入時、全数		曲げ強さは試験成績 表(検査証明書)で
JIS A 5361		試験成績表(検査	確認する。
JIS A 5363 JIS A 5365		証明書)を提出	

	T	T.	T
品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
試験方法	当初及び製造工場	試験成績表(検査	
針入度試験	又は規格の変化毎	証明書)を提出	
JIS K 2207			
軟化点試験			
JIS K 2207			
伸度試験			
JIS K 2207			
蒸発量試験			
JIS K 2207			
比重試験			
JIS K 2249			
セイボルトフロール			
度試験			
舗装施工便覧			
アスファルト乳剤の			
品質試験			
JIS K 2208			
クレオソート油加工			
エタール・タール			
ピッチ試験方法			
JIS K 2439			
カットバックアス			
ファルトの品質試験			
ASTM D 2027			
ASTM D 2028			

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS K 2208	搬入時適宜	試験成績表(検査 証明書)を提出	

9. 芝•樹木等

9-1 芝及び種子

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 芝	土	性状が生育に適してい ること。	特又は試験成績表により確認
	芝	種類、品質が 特 に適合	品質等証明書により確
	肥料	していること。 種類、品質及び配合が	認 種類、品質は品質等証
		特 に適合していること。	明書により確認 配合
2)種子 3)播種	土	性状が生育に適してい ること。	特又は試験成績表によ り確認
O / 1E E	種 子	種類、品質及び配合が 特に適合しているこ	種類、品質は品質等証明書により確認 配合
		と。	は 特 による。
	肥料	種類、品質及び配合が 特に適合しているこ	種類、品質は品質等証 明書により確認 配合
	日本は古	と。	は特による。
	土壌改良 剤、養生剤	種類、品質が 特 に適合 していること。	品質等証明書により確 認

9-2 植木等

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)樹 木 2)つる性植物	土	性状が生育に適してい ること。	特 又は試験成績表により確認
3) 竹	樹木	種類、品質が特に適合していること。	特による。
	肥料	種類、品質及び配合が特に適合していること。	種類、品質は品質等証明書により確認 配合は特による。

10. 目地材料

10-1 目地材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)目地材	材質	種 類 品 質	観察特による。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共第2編 3-10-1又は	産地毎に1回	試験成績表を提出	
特による。			
共第2編 3-10-1又は	産地毎に1回	品質等証明書を提	
特による。		出	
特による。	種類毎に1回	品質等証明書を提 出	
共第2編 3-10-1又は 特による。	産地毎に1回	試験成績表を提出	
特による。	種類毎に1回	品質等証明書を提 出	
特による。	種類毎に1回	品質等証明書を提 出	
特による。	種類毎に1回	品質等証明書を提 出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共第2編 3-10-1又は	産地毎に1回	試験成績表を提出	
 特 による。			
共第2編 3-10-3又は	種類毎に搬入後適	品質等証明書を提	
特による。	宜	出	
特による。	種類毎に1回	品質等証明書を提	
		出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
特による。	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	

10-2 コンクリート舗装用目地材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)目地板	材質	租 類品 質	観 察 特 による。
2)注入材	材質	種 類品 質	観 察 特 による。

11. 防食材料

11-1 アルミニウム合金陽極

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)電気防食陽極	陽極の種類 化学成分 形状寸法	承諾した品質に適合していること。 承諾図等の形状寸法に適合していること。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 製造工場の測定結果表 により確認
	量量	承諾した品質に適合し ていること。	製造工場の測定結果表により確認計量器により測定
	陽極板の電 流効率等(陽 極電位、発 生電流)	特の値に適合している こと。	製造工場の試験成績表 により確認

11-2 防食塗装

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 塗装材	材質	種 類 品 質	観 察 特 による。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
特による。	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	
	施工中適宜		
	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
監督職員が承諾した 図面	搬入前	試験成績表(検査 証明書)を提出	
監督職員が承諾した 図面 各陽極の形状寸法の 許容範囲は±5%以 内とする。	搬入前、全数	工場の測定表を提 出	
各陽極の質量の許容 範囲は±2%以内と し取付総質量は陽極 1個の標準質量の を下回ってはない。 ただし、陽極1 個の標準質量が30kg 未満の陽極質量の許 容範囲は±4%の範 囲とする。	搬入前、全数搬入時、適宜	工場の測定表を提出	
90%以上	搬入前	試験成績表を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
特による。	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	

11-3 被覆防食材料

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) モルタルライニ ング	材 質	種 類	観察
ング		品質	特による。
2) 保護カバー	材質	種 類品 質	<u>観察</u> 特による。

12. 防舷材

12-1 ゴム防舷材

	tata and T	fate and L. L.	data and 1 NJ
区分	管理項目	管理内容	管理方法
1) ゴム防舷材	材質	ゴムの物理試験(引張 試験、硬さ試験、老化 試験等)による材質が 共第1編 表2-9に適合 していること。	
	性能	反力及び吸収エネル ギー	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確
	外観	有害な傷等がないこ と。	観察
	形状寸法	長さ、幅、高さ、肉厚 (測定可能なもの)、ボ ルトの穴径及び中心間	製造工場の測定結果表により確認
2) 取付金具	外 観	有害な傷等がないこと。	観察
	形状寸法	特の形状寸法に適合し ていること。	観察

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
特による。	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査	
		証明書)を提出	
特による。	施工中適宜		
特による。	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査	
		証明書)を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共第2編 表3-9	ロットに使用した	試験成績表(検査	
JIS K 6250	練りゴムより試料	証明書)を提出	
JIS K 6251	1セット		
JIS K 6253			
JIS K 6257			
JIS K 6262			
特による。	10本に1本	試験成績表(検査	
		証明書)を提出	
異常が認められない	搬入時、適宜		
こと。			
特及び監督職員が承	搬入前、全数	工場の測定表を提	製造工場の測定結果
諾した詳細図等		出	表により確認し、様
			式・品質12-1(例)は
異常が認められない	搬入時、適宜		
こと。			
特及び監督職員が承	搬入時、適宜		
諾した詳細図等			

13. 係船柱

13-1 係船柱

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)係船柱	本体・付属 品の化学成 分、機械的 性質	JIS の規定による。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 認
	外 観 	有害な傷、変形等がないこと。 特の形状寸法に適合していること。	観 察 製造工場の測定結果表 により確認

14. 車止め・縁金物

14-1 車止め・縁金物

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 鋼 製 (縁金物を含む)	本体、被覆 材、付属品 の化学成 分、機械的 性質	JIS の規定による。	製造工場の試験成績表 (検査証明書)により確 認
	外 観形状寸法	使用上有害な反り、溶接部の不良個所等がないこと。 特の形状寸法に適合していること。	製造工場の測定結果表により確認
2) その他 (縁金物を含む)	材 質 外 観	特の形状寸法に適合していること。 使用上有害な反り等が	製造工場の測定結果表 により確認 観 察
	形状寸法	ないこと。 特 の形状寸法に適合し ていること。	製造工場の測定結果表により確認

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共第2編 表3-10	1溶解毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	
異常が認められないこと。	搬入時、全数		
共第4編 図3-1~3 及び共第4編 表3-1	搬入前、全数	工場の測定表を提 出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共 第 2 編 表3-11	搬入前	試験成績表(検査 証明書)を提出	
異常が認められない こと。	搬入時適宜		
特による。	搬入前、全数	工場の測定表を提 出	
特による。	搬入前	試験成績表(検査 証明書)を提出	
異常が認められないこと。	搬入時適宜		
特による。	搬入前、全数	工場の測定表を提 出	

15. マット

15-1 アスファルトマット

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) アスファルト マット	材質	合材の配合、合材の強度、アスファルトの針入度、マットの押抜き 強度が 特 に適合してい	
	外観	ること。 補強材の種類は 特 に適 合していること。	観察
	形状寸法	厚 さ 幅及び長さ	スチールテープ等で測 定 スチールテープ等で測 定
2)摩擦増大用マット	材 質形状寸法		

15-2 繊維系マット

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)繊維系マット	1477770	伸び、引裂、引張強度 等が 特 に適合している こと。	製造工場の試験成績表 により確認

15-2 合成樹脂系マット

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)合成樹脂系マット	材質及び規 格	伸び、引裂、引張強 度、比重、耐海水引張 強度等が 特 に適合して いること。	製造工場の試験成績表により確認

15-3 ゴムマット

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) ゴムマット	材質及び規 格	硬度、伸び、引裂、引 張強度等が 特 に適合し ていること。	
2)摩擦増大用マット	材質	特による。	製造工場の試験成績表 により確認
	形状寸法	特による。	スチールテープ等で測 定

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共第2編 3-16-1又は 特による。	1,000m ² に1回	試験成績表及び配 合表を提出	17-1アスファルト舗 装を適用する。
特による。	搬入時、適宜		
特による。	20枚に1枚を2箇 所	管理表を作成し提 出	
特による。	20枚に1枚を1箇 所	管理表を作成し提 出	
			15-1-1アスファルト マットを適用する。
			15-1-1アスファルト マットを適用する。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	搬入前、適宜	試験成績表を提出	引張試験JIS L 1908 引裂試験JIS L 1096

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	搬入前、適宜	試験成績表を提出	引張試験JIS K 6723 引裂試験JIS K 6252 比重試験JIS K 7112 耐海水試験 JIS K 6773

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	搬入前、適宜	試験成績表を提出	引張試験JIS K 6251 引裂試験JIS K 6252
特による。	特による。	試験成績表を提出	
特による。	特による。	管理表を作成し提 出	

16. コンクリート

16-1 レディーミクストコンクリート

10-1 レティーミ	1	1	fate and 1 NI
区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)JIS工場製品	配合	規定の品質が得られる ことの確認	レディーミクストコン クリート配合報告書の 配合設計の基礎となる 資料の検討
		試験練り	JIS A 1138 又はプラントによりコンクリートを製造し、スランプ、空気量、強度、塩化物量、その他の品質の確
	スランプ	スランプ試験	JIS A 1115 JIS A 1101 荷卸し地点で採取、試 験
	沈下度	沈下度試験(舗装用コンクリートに適用)	土木学会規準「振動台 式コンシステンシー試験方法」
	空気量	空気量試験	JIS A 1115 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128 荷卸し地点で採取、試
	強度	供試体の作成	JIS A 1115 JIS A 1132 荷卸し地点で作成
		圧縮試験	JIS A 1108

31

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
JIS A 5308 及び 特 による。	製造前及び使用材 料の変更時	配合報告書を提出	
JIS A 5308 及び 特 による。	製造前及び使用材 料の変更時	配合設計の基礎資料を提出	水セメント比の算定 方法、配合修正の条 件と方法
	JIS 工場製品以外 で監督職員が指示 した時	試験成績表を提出	様式・品質16-1参照
スランプ5cm以上8cm 未満 : 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm 以下: 許容差±2.5cm	供試体作成時	管理表を作成し提 出	様式・品質16-2参照
特による。	供試体作成時	管理表を作成し提 出	
規定値に対する許容 範囲は± 1.5%	供試体作成時	管理表を作成し提 出	様式・品質16-2参照
	1日1回とし、1 日の打設量が 150 m ³ を超える場合 は1日2回と「同じます」 る。ただし、当り同じまでは、当り場合が少督では、当り場合 は、整得では、当り場のののでは、 は、というでは、 に関係ないできる。		
1回の試験結果は、 呼び強度(指定強 度)の値の85%以上 3回の試験結果の平 均値は、呼び強度(指 定強度)の値以上	供試体作成毎1回 の試験は、3個の 供試体の平均値と する。	管理表を作成し提出	様式・品質16-2参照 少量の場合は省略で きる。

32

区分	管理項目	管理内容	管理方法
	日生快日		
		曲げ試験	JIS A 1106
	コンクリー ト温度	温度測定	供試体作成場所で測定 打設場所で測定
	塩化物含有 量	塩化物量試験	JIS A 1115 JIS A 5308 附属書 5

16-2 コンクリートミキサー船

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) コンクリー ト ミキサー船			

16-3 現場練りコンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 現場練りコンク			
イ)配合指定	示方配合	試験練り	JIS A 1138 又はプラン
			トによりコンクリート を製造し、スランプ、
			空気量、強度、塩化物
			量、その他の品質の確
	現場配合	細骨材の表面水量	JIS A 1111
			JIS A 1125
		骨材の粒度	JIS A 1102
	材料の計量		静荷重試験
		ミキサ	
		連続練りミキサ	キャリブレーション
		計量誤差バッチミキサ	0点、設定針、表示針 を観察、確認

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1回の試験結果は、 呼び強度(指定強 度)の値の85%以上 3回の試験結果の平 均値は、呼び強度(指 定強度)の値以上	供試体作成毎1回 の試験は、3個の 供試体の平均値と する。	管理表を作成し提出	様式・品質16-2参照 少量の場合は省略で きる。
特による。 5℃以上35℃以下	供試体作成毎	管理表を作成し提 出	様式・品質16-2参照
特による。 5℃以上35℃以下			配合報告書の「指定事項」と対比
JIS Å 5308 による。	第1回コンクリー ト打設前及び使用 材料の変更時	試験成績表を提出	無筋コンクリートで 用心鉄筋が入らない 構造物は全塩化物イ オン量の制限はしな い。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
			16-1レディーミクス トコンクリートを適 用する。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
	施工前1回	試験成績表を提出	様式・品質16-1参照 σ ₂₈ は、配合強度を 標準とする。
	1日1回以上	試験成績表を提出	
共 第2編 表3-1	1日1回 6箇月1回	試験成績表を提出 検定合格証又は試 験成績表(写)を 提出	2-1砂を適用する。
L. Intr. 4 (ci. +t o. o.	工事開始前1回	各材料ごとのキャ リブレーション結 果を提出	
共 第 1 編 表 3-2	午前、午後の作業 開始時		

区分	管理項目	管理内容	管理方法
		連続練りミキサ	連続8バッチについて 計量時の指示値又は自 動記録を読み取る。 カウント数、表示針を
		練混ぜ性能バッチミキ	観察、確認 IIS A 1119
	VT /13 - 10	サ	
	練混ぜ	連続練りミキサ	土木学会規準「連続ミ キサの練混ぜ性能試験 方法」
		練混ぜ時間バッチミキ サ	時間測定
		外観、均一性、ワーカ ビリチー等	観察
	スランプ又 は沈下度	スランプ試験	JIS A 1115 JIS A 1101 打設現場で採取、試験
		沈下度試験(舗装用コ	
		ンクリートに適用)	式コンシステンシー試 験方法」
	空気量	空気量試験	JIS A 1115 JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128 荷卸し地点で採取、試
	強度	供試体の作成	JIS A 1115 JIS A 1132 打設現場で作成
		□□◆佐⇒Ł₩Ϙ	TIC A 1100
		圧縮試験	JIS A 1108

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共 第1編 表3-2	1箇月1回	試験成績表を提出	
II Mr. 1 /	hade by the stability		
共 第1編 表3-2	午前、午後の作業 開始時		
	6箇月1回	試験成績表を提出	コンクリート標準示 方書参照
	工事開始前1回	試験成績表を提出	コンクリート標準示 方書参照
規定の時間以上及び 同時間の3倍以下	午前、午後の作業 開始時		
	全バッチ		
スランプ5cm以上8cm未満 : 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以 下: 許容差±2.5cm	供試体作成時	管理表を作成し提 出	様式・品質16-2参照
1174 ZE = 3. 00m	供試体作成時	管理表を作成し提 出	
規定値に対する許容 範囲±1.5%	供試体作成時	管理表に記録提出	様式・品質16-2参照
	1 日 1 回 2 し、 1 日 の打設量が 150 m 3 を超える場合は 1 日 2 回とする。ただ し、同一配合の 1 日 1 1 日 1 2 回 1 2 回 1 3 監督職員の 承諾を得て打設目数 に関係なく 100 m 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
1回の試験結果は、 指定強度の値の85% 以上、3回の試験結 果の平均値は、指定 強度の値以上	供試体作成毎1回 の試験は、3個の 供試体の平均値と する。	管理表及び管理図 を作成し提出	様式・品質16-2、 16-3参照少量の場合 は省略できる。

港湾工事品質管理基準

35

区分	管理項目	管理内容	管理方法
		曲げ試験	JIS A 1106
	コンクリー ト温度	温度測定	供試体作成場所で測 定、打設場所で測定
	塩化物含有量	塩化物量試験	JIS A 1115 JIS A 5308 附属書 5 出荷場所又は 荷卸し場所で測定
口)品質指定			

16-4 暑中コンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 暑中コンクリート	水及び骨材 の温度	温度測定	温度測定
	コンクリー	温度測定	供試体作成場所で測
	ト温度		定、打設場所で測定

16-5 寒中コンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 寒中コンクリート	水及び骨材 の温度	温度測定	温度測定
	コンクリー ト温度	温度測定	供試体作成場所で測 定、打設場所で測定

	1	T	1
品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1回の試験結果は、 指定強度の値の85% 以上、3回の試験結 果の平均値は、指定	供試体作成毎1回 の試験は、3個の 供試体の平均値と する。	管理表及び管理図 を作成し提出	様式・品質16-2 、 16-3参照少量の場合 は省略できる。
強度の値以上	, - 0		
特による。	供試体作成毎	管理表を作成し提 出	様式・品質16-2参照
特による。	第1回コンクリー ト打設前及び使用 材料の変更時	試験成績表を提出	無筋コンクリートで 用心鉄筋が入らない 構造物は全塩化物イ オン量の制限はしな い。
			16-1レディーミクス トコンクリートを適 用する。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
	随時		その他の項目は、レディーミクストコンクリート・現場練コンクリートを適用する。
特 による。暑中コン クリートは35℃以下	供試体作成毎	管理表を作成し提 出	様式・品質16-2参照

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
	随時		その他の項目は、レ ディーミクストコン クリート・現場練コ ンクリートを適用す る。
特による。寒中コン クリートは5℃~ 20℃	供試体作成毎	管理表を作成し提 出	様式・品質16-2参照

16-6 水中コンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 水中コンクリー			
1			

16-7 袋詰コンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 袋詰コンクリー			
h			

16-8 水中不分離性コンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)水中不分離性コンクリート			
799-F			

16-9 プレパックドコンクリート

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) プレパックドコンクリート			

16-10 コンクリート舗装

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) コンクリート舗装			
10			

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
			16-1レディーミクス トコンクリートを適 用する。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
			16-1レディーミクス トコンクリートを適 用する。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
			16-1レディーミクス トコンクリートを適 用する。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
			16-1レディーミクス トコンクリートを適
			用する。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
			16-1レディーミクス トコンクリートを適
			用する。

17. アスファルトコンクリート

17-1 アスファルト舗装

17-1 / 2 / 7/	1 1111142		_
区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) アスファルトコンクリート	配合設計	試験練り及びマーシャ ル試験	監督職員の承諾する方法により、特の品質が得られることを確認
	材料の計量	計量機の検定	
		計量誤差	
		骨材の合成粒度(ホットビン)	JIS A 1102 JIS A 1204 現場配合決定時の粒度 と対比
	混合物	ミキサ排出時の温度	温度測定
		敷き均したときの温度 (初転圧直前)	温度測定
		安定度等	舗装施工便覧(マー シャル安定度試験方
		抽出アスファルト量	舗装施工便覧 (アス ファルト混合物の抽出 試験方法)
		粒 度	抽出ふるい分け試験又 は印字記録
		コアによる密度の測定	舗装施工便覧(締め固 めた歴青混合物の密度 試験方法)

41

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
共 第2編 3-18-1又は 特 による。	共 第2編 3-18-1に よる。	試験成績表及び配 合表を提出	舗装撤去、復旧等簡 易なものについては 監督職員の承諾を得 て省略することがで きる。 検定合格証(写)提
	監督職員が必要と 認めるとき測定 1日1回		Ш
事前に監督職員に承 諾を得た温度に対し ±25℃かつ185 ℃以 下	運搬車毎	適宜	
110 ℃以上	運搬車毎ただし同 一配合の合材100 t 未満のものは1日 2回 (午前、午後)	管理図を作成し提出	
共 第 2 編 3-18-1	1日1回	管理図を作成し提 出	
舗装施工便覧	抽出試験1日1回 印字記録の場合 は、全数	管理図を作成し提 出	
舗装施工便覧	抽出試験1日1回 印字記録の場合 は、全数	管理図を作成し提 出	
規準密度の94%以上	1,000m ² 毎に1回	管理図を作成し提 出	

42

18. その他

18-1 ペーパードレーン

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) ドレーン材	材 質	種 類	観察
		品質	特による。

18-2 路盤紙

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)路盤紙	材質	種類	観察
		品 質	特による。

18-3 防砂目地板

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 防砂目地板	材 質	種類	観察
		品質	特による。

18-4 区画線及び道路標示

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
	材質	種 類	観察
標示		品 質	特による。

18-5 道路標識

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 道路標識	材質	種 類 品 質	観察特による。

18-6 防護柵

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) 防護柵	材質	種 類 JIS規準に適合してい ること。	観 察 製造工場の試験成績表 により確認

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜	試験成績表を提出	
特による。	搬入前に1回	管理表を作成し提	
		出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
特による。	搬入前に1回	特による。	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
特による。	搬入前に1回	特による。	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
	搬入前に1回	特による。	
特による。			

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
共第2編 3-19-5又は 特による。	搬入前に1回	特による。	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
共第2編 3-19-6又は 特による。	搬入前に1回	監督職員が指示し たとき試験成績表	
		(検査証明書)を 提出	

18-7 溶接材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)溶接材	材質	種 JIS規準に適合してい ること。	観 察 製造工場の試験成績表 により確認
	溶接部の強 度	引張及び曲げ	JIS Z 3121、3131等公 的機関の試験成績によ り確認
		非破壞試験	JIS Z 3104放射線透過 試験の他、⊠による。 カラーチェック

18-8 ガス切断材

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1) ガス切断材	材質	種 JIS規準に適合してい ること。	観 察製造工場の試験成績表により確認

18-9 汚濁防止膜

区 分	管理項目	管理内容	管理方法
1)汚濁防止膜	材 質	種 類	観察
		品 質	特による。

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
共第2編 3-19-7又は 特による。	搬入前に1回	監督職員が指示したとき試験成績表 (検査証明書)を 提出	
特による。	特による。	試験成績表(検査 証明書)を提出	
特による。	特による。	写真又はフィルム を提出	
特による。	特による。	写真を提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
	搬入前に1回	監督職員が指示し	
特による。		たとき試験成績表	
		(検査証明書)を	
		提出	

品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
特による。	施工中適宜		
特による。	搬入前に1回	特による。	

工 事 名	
工種	
プラント名	
試料採取	
場所	
試験年月日	
試験場所	
測定者	印

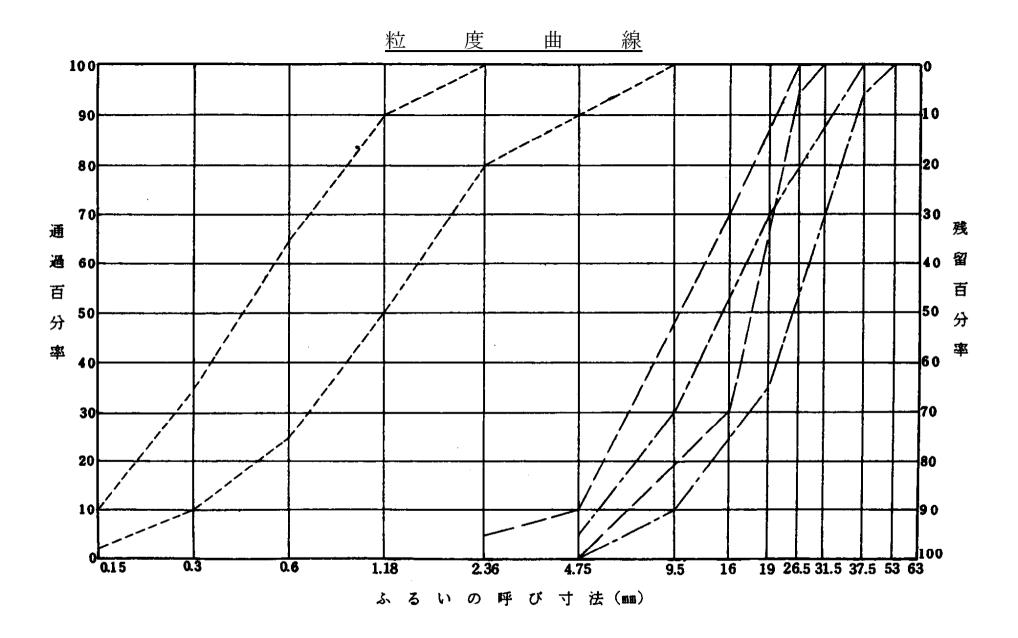
	細	骨	材	粗	骨	材
最大寸法						
産 地						
比 重						
吸水量						
11.4 m7 J	. =	·	H	П		on Shit ⊢

比重、吸水量は 年 月 日の測定値

現場代理人

印

細骨材の種類		粗粒率		粗骨材の種類		粗粒率	
ふるいの 呼び 寸 法 (mm)	ふるい残留 (kg)	質量百分率	累加質量 (%)	ふるいの 呼び寸法 (mm)	ふるい残留 (kg)	質量百分率	累加質量 (%)
				63			
				53			
				37. 5			•
9.5				31. 5			
4.75				26. 5			
2.36				19			•
1.18				16			
0.6				9. 5			•
0.3				4. 75			•
0.15				2. 36			•
			100	Ш			100
計		100		計		100	



防 舷 材 形 状 管 理 表 (例)

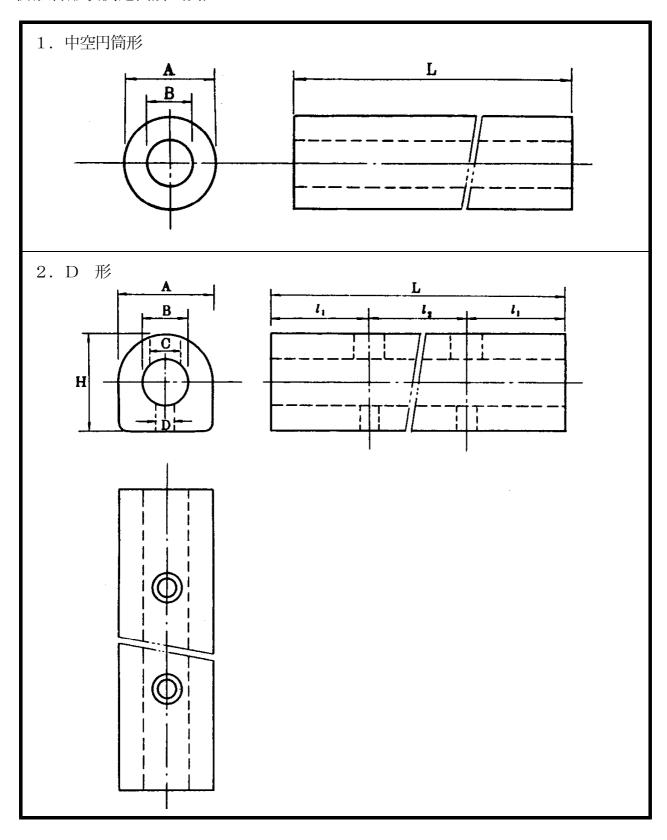
工	事	名	型	式	
年	月	B	現場代	理人	• ED

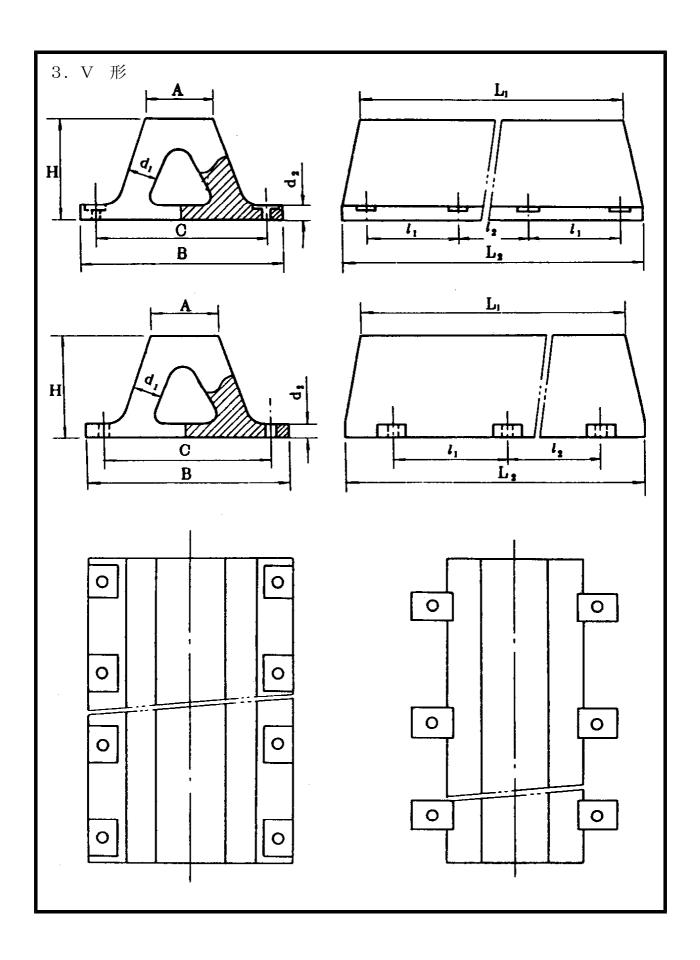
単位 mm

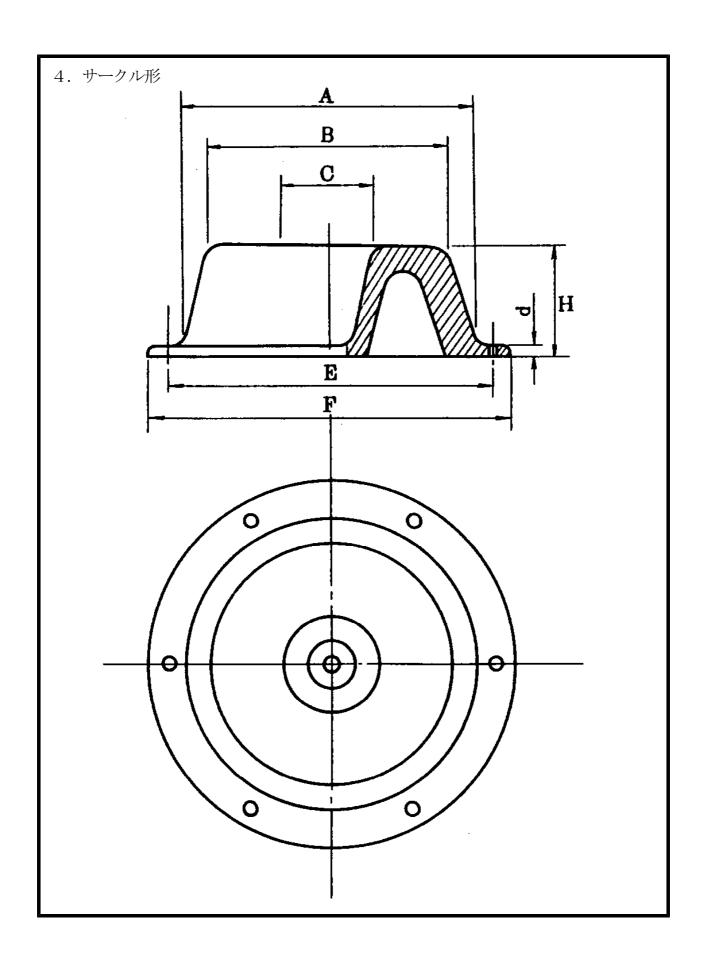
測定箇別	ŕ	標準寸法	No.	No.	No.	備	考
長っさ	L 1						
長 さ	L_2						
中口	A						
幅	В						
高 さ	Н						
肉 厚	d ₁						
底 版 厚	d_2						
ボルト穴径	φ						
	С						
ボルト穴の	I 1						
中心間隔	I 2						
その他							

(別紙)

防舷材形状測定箇所 (例)







工 事 名				<u>I.</u>	種	
試 験 日	年	月	日	<u>立</u> 会	者	
試験場所	ŕ					印

1 示方配合表

粗骨材の	スランプの	空気量の	水セメント比	細骨材率
最大寸法	範 囲	範 囲	W/C	s/a
(mm)	(cm)	(%)	(%)	(%)

2 現場配合表

コンクリート 量	W	С	S	G
(m³)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)
1				

3 試料採取及び養生 (JIS A 1115 及び 1132)

日
所
刻
候
温
度
プ
量
法
度
令

様式・品質16-1

プラ	ラン	卜名		
<u>測</u>	定	者		E

現場代理人

	単	位 量	(kg/m^3)	
水, W	セメント, C	細骨材,S	粗骨材,G	混和剤()

混 和 剤	表 面	水 (%)	摘	#	
(', g)	S	G	加	要	

4 試験成績表 (JIS A 1108 又は 1106)

, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,								
供	試(本 番	号	No.	1	2	3	平 均
供計	試 体	の直	1径	cm				
	IJ		幅	11				
	IJ	高	さ	"				
	IJ	長	さ	"				
	IJ	スノ	ペン	"				
最	大	荷	重	kN				
圧	縮	強	度	N/mm^2				
曲	げ	強	度	"				
破	壊	状	況					
そ	C	り	他					

工事名

工種

打設年月日	番号	スランプ	空気量	温 度		
11 放平方口	田 ケ	(cm)	(%)	(℃)	試験月日	X 1

設 計 条 件

X管理

管理限界=

UCL =

LCL =

呼 び 強 度	N/mm^2	標準偏差	N/mm^2
粗骨材の最大寸法	mm	変 動 係 数	%
スランプの範囲	cm∼ cm	割増係数	
空気量の範囲	%∼ %	配合強度	N/mm^2

 $\overline{X} = \frac{\sum X}{N}$

 $_{\rm X}$ J I S 工場の場合はRs、Rm、 $({\rm X}-{\rm X})^2$ 、標準偏差、変動係数、割増係数、配合強

様式・品質16-2

現場代理人

O 28	1	T	R s	Rm	$(X - \overline{X})^2$	摘	要
X 2	Хз	平均値X	10.5	1111	(11 11)	1144	~

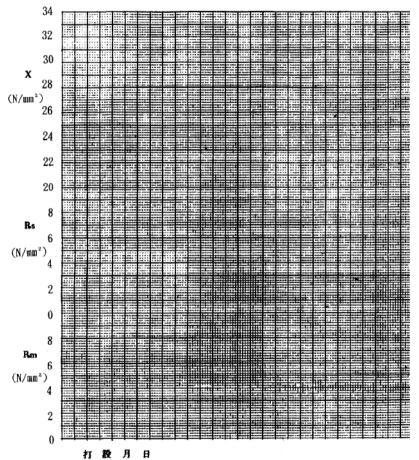
7 1	R s 管理図	Rm管理図	無準信羊 /	$\sum (X-\overline{X})^2$
<u>S</u> I	KSE连凶	KIII官连凶	標準偏差 σ =	N-1

 \overline{X} $\pm 2.66 \overline{R}$ s 管理限界= $3.27 \overline{R}$ s 管理限界= $2.57 \overline{R}$ m (n=3) UCL= UCL=

$$\overline{R}_S = \frac{\Sigma R_S}{N-1} = \overline{R}_M = \frac{\Sigma R_M}{N} =$$
変動係数 $V = \frac{\sigma}{\overline{X}} \times 100 =$

度は不要





様式・品質16-3

現場代理人・印

